

NEJIREBANE, No. 124, 15. Sep 2009

北海道弟子屈町桜ヶ丘森林公園のオサムシ亜科各種の季節的消長
 Seasonal prevalence of Carabinae beetles (Coleoptera, Carabidae) at Sakuragaoka
 forest-park in Teshikaga-town, East Hokkaido, Japan

By Ken-ichi MATSUMOTO

松本 堅一

〒088-3214 北海道川上郡弟子屈町高栄2-7-8

1. はじめに

川上郡弟子屈町は北海道の東部、釧路湿原と根釧台地の北部、北緯 43°29' 東経 144°27' 付近に位置し、摩周岳、西別岳、アトサヌプリ、雄阿寒岳といった火山群に囲まれた盆地の中央部に存在している。町内に屈斜路湖、摩周湖という二つの火口原湖を含み、屈斜路湖から流れ出す釧路川と阿寒方面に源流を持つ鑑別川が町内で合流し、摩周火山、屈斜路火山、アトサヌプリ火山の堆積物と、両河川が作った高位、中位、下位、新期の4段の河岸段丘が広がっている。

これまでこの地域のオサムシ亜科は川湯温泉、摩周湖周辺を中心に飯島 (1978)、阿寒国立公園調査会 (1995) 等により採集・調査されてきた。筆者は 2007 年 9 月に当地に移住し、町内各地の採集を試み、オサムシ亜科 10 種を採集し、報文を発表した (2008)。

桜ヶ丘森林公園 (写真 1) は、弟子屈中心部から南へ約 1 km、鑑別川の対岸の標高 130m から 200m の下位、中位の断丘面にあり、弟子屈町により 1994 年にオートキャンプ場として開設された隣接する自然観察林は、林床がチシマザサ覆われ、カラマツ林と、潜在自然植生への遷移途上の景観を保つミズナラ等の広葉樹とアカエゾマツの混交林が広がり、林内には一周 1490m の林間歩道が設置されている。筆者は 2008 年 5 月から 10 月にかけてこの森林公園のオサムシ亜科の季節的消長を調査した。

北海道におけるオサムシ亜科の季節的消長は、木元・保田 (1995) の研究がある。木元・保田



写真1 桜ヶ丘森林公園

(1995)は大雪山, 羊蹄山, 利尻山, 礼文岳, サロベツ原野において1977年から1991年に掛けて実施した地表性歩行虫の調査目録を公表している. 木元・保田(1995)の研究は, オサムシを含めた地表性歩行虫全般を研究した物であり, 季節的消長については大雪山及びサロベツ原野を対象に地表性歩行虫総個体数の季節的消長が示されている. 北海道のオサムシ各種の生活史については井村(1985), 堀(2003)により概括され, ほとんどの種が成虫越冬であることを明らかにした.

本州のオサムシ各種の季節的

消長に関しては, 曾田(2000)の研究がある. 曾田は京都府京大植物園, 大阪府の金剛山, 長野県松本市, 美ヶ原, 乗鞍岳で定期的にトラップによる調査を行い, オサムシ各種の季節的消長を詳細に分析している. また, 曾田は石川(1991)が提唱した上位分類群である真性オサムシ群は春繁殖型であり, 多条オサムシ群は秋繁殖型であることを明らかにしている. これらの研究と, 筆者が得たデータとを比較・検討し, 当公園におけるオサムシ亜科の季節的消長の考察を試みた.

2. 調査方法

ミズナラの芽出しの終わった5月17日から, ミズナラの落葉が終わった10月10日にかけて, 町により設置された一周1490mの林間歩道に沿い, 300mおき9ヶ所の地点に氷酢酸20%溶液を使用したベイトトラップを, 3個ずつ計27個を常設し(図1), 約1週間おきにトラップに落ちた全ての個体を回収し調査した.

3. 結果及び考察

(1) 採集できた種

この森林公園で採集できたのは以下の6種である.

- 1 セダカオサムシ *Cychuris morawitzi* GEHIN
- 2 アオカタビロオサムシ *Calosoma inquisitor cyanescens* MOTSCHULSKY
- 3 コブスジアカガネオサムシ *Carabus arvensis hokkaidensis* LAPOUGE
- 4 オクエゾクロナガオサムシ *Leptocarabus arboreus paraboraeus* ISHIKAWA
- 5 ヒメクロオサムシ *Leptocarabus opaculus opaculus* (PUZEYS)
- 6 エゾマイマイカブリ *Damaster blaptoides rugipennis* MOTSCHULSKY

(2) 結果及び考察

表1に調査日ごとの各種の総個体数を示す.

グラフ1はトラップに落ちた総個体数の消長である. これらから分るようにこの公園では5月31日に初めて成虫が出現し, 7月中旬から7月下旬に小さなピークを迎えた後, 9月初旬から9月中旬に最大値を記録し, 9月中旬以降急速に減少した. 最後の成虫がトラップに落ちたのは10月9日だった. 木元・保田は7月にトラップに落ちた地表性歩行虫の個体数が最も多く, 気温の低下する9月に急速に減少することを明らかにしているが, この公園のオサムシ亜科に関する筆者の調査で



図I 桜ヶ丘森林公園
(弟子屈町観光課, 農林課作図を修正)
①～⑨はトラップの設置地点を示す

は、9月中旬に最も多くの成虫がトラップに落ち、木元・保田(1995)が述べているように以降急速に減少した。

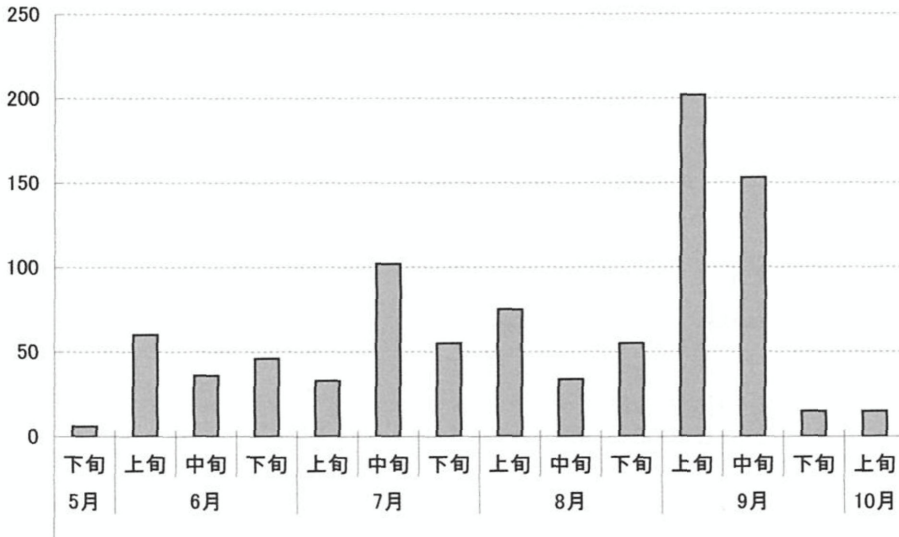
セダカオサムシの成虫は6月10日に1個体がトラップに落ち、8月22日に4個体トラップに落ちた。(表I)町内に常設した釧路川河畔林のトラップにおいても同様の傾向が見られた。アオカタビロオサムシの成虫は6月10日に1個体がトラップに落ちただけである(表I)。町内他地域の調査採集においても6月8日から6月26日までの間に記録した。曾田及び堀が述べているように、食餌である隣翅目幼虫の発生と関連すると思われる。尚、この公園においてはトラップに落ちなかったが、町内ではほぼ同時期にトラップに落ちた同じカタビロオサムシ亜族のエゾカタビロオサムシ *Campalita chinense* の成虫は、9月22日と9月28日に釧路川河畔のヨシ草原で再びトラップに落ちた(データ未発表)。

表I 桜ヶ丘森林公園におけるオサムシ亜科各種成虫の採集日と雌雄別個体数

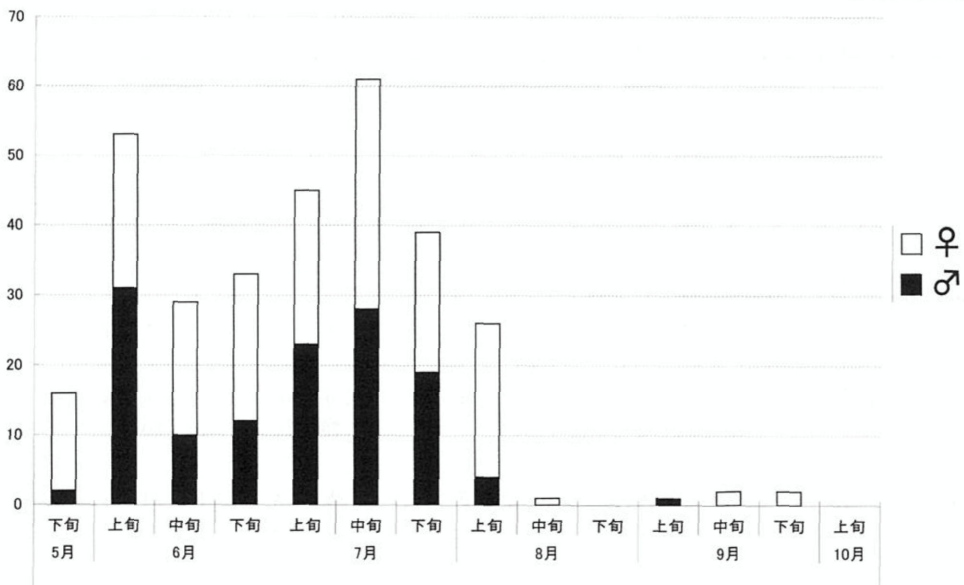
species	date	'08																		
		5/31	6/7	6/10	6/16	6/27	7/4	7/11	7/18	7/25	8/1	8/8	8/15	8/22	9/1	9/6	9/19	9/26	10/3	10/6
<i>Cy. morawitzi</i>	♂	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
	♀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
<i>Cal. l. cyanescens</i>	♂	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	♀	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. a. hokkaidensis</i>	♂	2	21	11	10	12	14	9	19	19	3	1	-	-	1	-	-	-	-	-
	♀	4	14	8	19	21	12	10	23	20	11	11	1	-	-	-	2	2	-	-
<i>L. a. paraborous</i>	♂	-	-	-	-	1	3	1	-	4	3	8	9	14	25	23	39	4	2	-
	♀	-	-	-	-	2	-	1	-	1	5	9	12	11	28	20	30	2	2	4
<i>L. o. opaculus</i>	♂	-	-	1	1	4	-	5	7	6	2	9	5	17	31	17	44	5	1	1
	♀	-	-	1	3	3	2	6	7	1	7	4	5	6	30	26	38	2	3	2
<i>D. b. rugipennis</i>	♂	-	-	-	3	2	-	7	3	4	1	-	2	3	-	1	-	-	-	-
	♀	-	1	1	-	1	2	3	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-

コブスジアカガネオサムシの成虫は最も早く5月31日にトラップに落ちた。個体数に多少の変動は見られたが、6月上旬から7月下旬まで平均して多数の成虫がトラップに落ち、8月上旬にかけて急速に減少し、8月中旬はトラップに落ちなかったが、9月上旬から9月下旬にかけて再び少数の成虫がトラップに落ちた（グラフⅡ）。

この公園のコブスジアカガネオサムシは曾田 (2000) が研究した松本市の真性オサムシ群に属するアオオサムシ *Carabus insulicola* と同じ季節的消長を示しており、春繁殖型である。しかし、7月中旬から7月下旬にかけて新個体の成虫が発生し、休眠した後9月に少数の新個体の成虫が発生した事実から、少数の成虫は7月から8月に繁殖活動を行うことを示唆している。



グラフⅠ 桜ヶ丘森林公園のオサムシ亜科成虫総個体数の季節的消長



グラフⅡ 桜ヶ丘森林公園の C. a. hokkaidensis 成虫の季節的消長

オクエゾクロナガオサムシの成虫は6種のうちで最も遅い6月下旬に初めてトラップに落ちた。8月上旬から増加傾向を示し、9月上旬に最も多い成虫の個体がトラップに落ち、9月下旬以降急速に減少した(グラフIII)。町内に常設した釧路川河畔林内のトラップにおいても同様の傾向が見られた(グラフVI)。

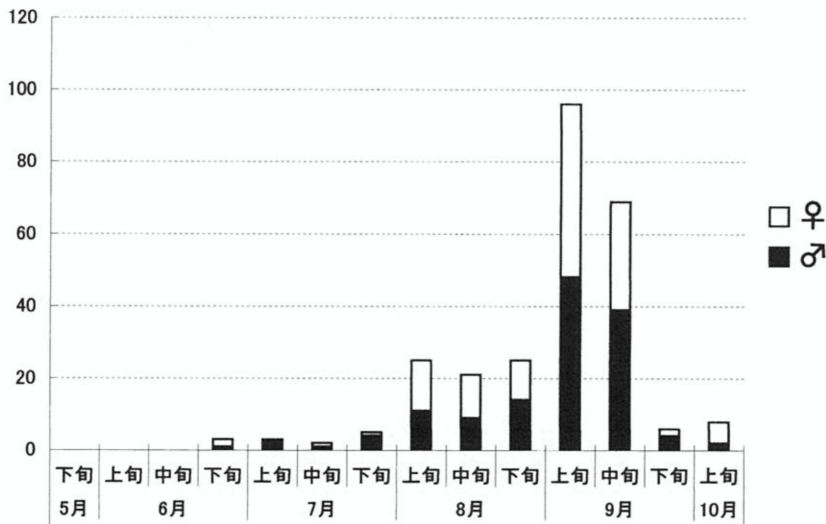
この公園のオクエゾクロナガオサムシも曾田が研究した松本市三城の別亜種と同じ季節的消長を示しており、秋繁殖型である。

ヒメクロオサムシの成虫は6月初旬に初めてトラップに落ちた。8月初旬から増加傾向に転じ、9月上旬に最も多い成虫の個体がトラップに落ち、9月下旬以降急速に減少した(グラフIV)。町内に常設した釧路川河畔林内のトラップにおいても同様の傾向が見られた(グラフVI)。

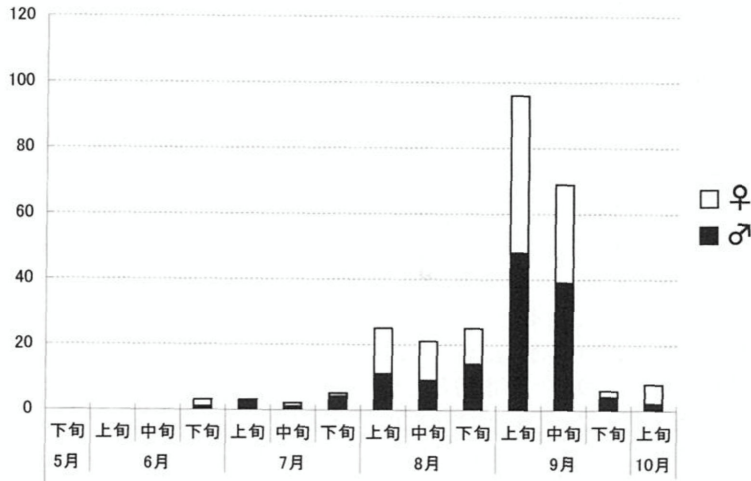
本種と形態的に非常に似ていて、本州の高地帯に生息するホソヒメクロオサムシ *Leptocarabus harmsndi* は、石川(1985)により本種 (*Asthenocarabus* 亜属)とは別亜属の *Pentacarabus* 亜属に分類され、その後、井村・水沢(1996)が本種とともに *Tomocarabus* 亜属にまとめて分類した。このオサムシは曾田の研究によれば、春に繁殖後成虫は姿を消し、秋に新成虫が発生する季節的消長のパターンを持つようである。しかし、この公園では本種は曾田の研究した乗鞍岳のホソヒメクロオサムシと異なり、明瞭な休眠期を示さず、オクエゾクロナガオサムシと殆んど同じ秋繁殖型のパターンを示した。曾田の指摘するように、気温による活動期間の長さを勘案する必要があるが、標高1670mの長野県乗鞍岳と北緯43°29'の当地の季節の推移はほぼ同じである。この両種の季節的消長の相違は、石川の分類を支持している。

エゾマイマイカブリの成虫は6種中、最もトラップに落ちた個体数が少なかった。6月上旬に初めてトラップに落ち、7月中旬に最も多い成虫の個体がトラップに落ち、以降減少傾向を示し、9月下旬以降はトラップに落ちなかった(グラフV)。町内に常設した釧路川河畔林内のトラップにおいても同様の傾向が見られた(グラフVI)。

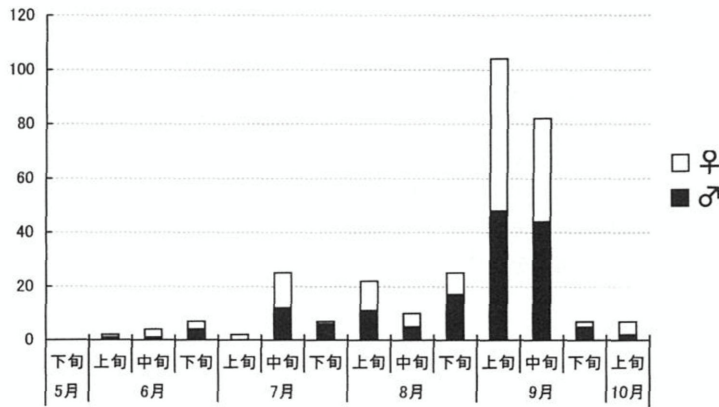
この種の食餌であるカタツムリの発生と関連すると思われる。同じカタツムリを食餌とするセダカオサムシの成虫が、上述したように6月10日にトラップに落ちた後8月22日に再びトラップに落ちた事実は、両種のニッチ上の関係を示唆している。



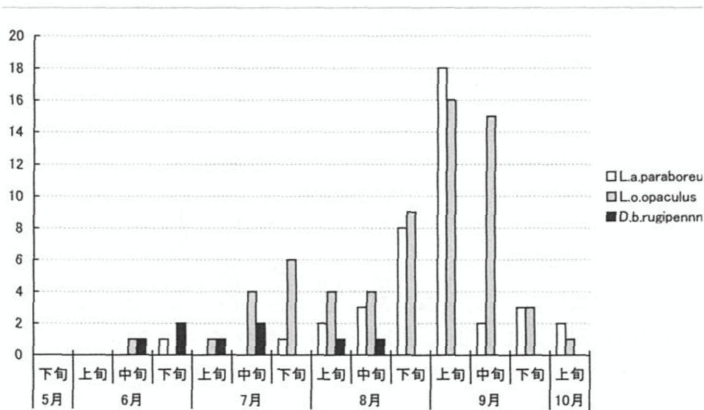
グラフ III 桜ヶ丘森林公園の *L. a. paraboreus* 成虫の季節的消長



グラフ IV 桜ヶ丘森林公園の *C. o. opaculus* 成虫の季節的消長



グラフ V 桜ヶ丘森林公園の *D. b. rugipennis* 成虫の季節的消長



グラフ VI 釧路川河畔林内のオサムシ各種の季節的消長

4. 文 献

- 芳賀馨, 1995. コウチュウ目, 阿寒国立公園昆虫目録, 前田一歩園財団: 22-30.
 堀繁久, 2003. オサムシ, 知床の昆虫, 北海道新聞社: 70-93.
 飯島一雄, 1978. 釧路管内の甲虫類 クワガタムシ科, オサムシ科, 釧路市立博物館紀要, 5: 11-16.
 飯島一雄, 2006. 北海道東部の鞘翅目-オサムシ科, ホソクビゴミムシ科-, 標茶町郷土資料館報告, 18: 117-164.
 井村有希, 1985. 北海道地方のオサムシに関する知見, オサムシマップ19.
 井村有希・水沢清行, 1996. 世界のオサムシ大図鑑, むし社.
 石川良輔, 1985. オサムシ科 (オサムシ亜科), 原色日本甲虫図鑑 (II) 保育社: 14-54.
 石川良輔, 1991. オサムシを分ける錠と鍵. 八坂書店.
 木元新作・保田信紀, 1996. 北海道の地表面歩行虫類, 東海大学出版会.
 松本堅一, 2008. 弟子屈町で採集したオサムシ亜科の記録, SYLVICOLA Vol.26, 釧路昆虫同好会: 1-6.
 瀬川秀良, 1974. 日本地形誌 北海道地方, 朝倉書店.
 曾田貞滋, 2000. オサムシの春夏秋冬, 京都大学出版会.

三重県のコメツキムシ (9)
 Elaterid-beetles from Mie Prefecture, Japan (9)
 By Takashi KISHII
 岸井 尚

〒 569-1044 高槻市上土室 1-10, 6-410

三重県のコメツキムシについては、津市在住の生川展行氏などによる蒐集資料で、これまでに多くを本誌に発表させて頂いた (Nejirebane, Nos. 77, 79, 80, 81, 82, 93, 94, 95). 今回は 2004-2007 年の甲虫学会大会時に生川氏より託されたものの記録で、下記のように多数の同県在住の同好諸氏による、主として鈴鹿市、亀山市と伊勢市の神宮林などの河川敷及び社叢に棲息する種の資料が多い。今回も三重県から初記録になる複数の種があり、その外にも多くの興味深い種が見出された。なお、本稿作成中に鈴鹿市から大変立派な環境報告書“鈴鹿市の自然”(2008: 810 pp)が発行され、この中には今回記録する筆者の検した資料も含まれるので記録が重複するものもある。また産地名の後尾に(LT)(FIT)(MT)(バケツ)とあるのは、それぞれ燈火飛来、フィット・トラップ、マレーゼ・トラップ、バケツ・トラップによるものである。

資料採集者名 (ABC 順): 飯場晴也・池田正清・稲垣政志・稲垣慎吾・伊藤元幸・河北均・川添昭夫・小島弘昭・近藤恭子・間野高裕・南口博・村木武則・中西元男・生川展行・大杉淳・岡田直也・尾崎美香・尾崎柚香・武田彩・山口照美・安田鷹生・横関秀行・米川弥寿代。

Pectocera hige hige KISHII, 1993 ヒゲコメツキ

亀山市白木町国分寺 (LT), 1♀, 5. VI. 2004, 横関秀行 leg.; 新所町関ニュータウン, 1♂, 5. V. 2005, ditto; 加太不動滝 (LT), 1♂, 5. V. 2005, ditto; 関ヶ丘破魔射場池, 1♂, 1♀, 21. VI. 2006, ditto.

Meristhus (Sulcimerus) niponensis LEWIS, 1894 スナサビキコリ (写真1)

鈴鹿市磯山町鼓ヶ浦海岸, 1♂, 2♀♀, 15. VII. 2004, 生川展行 leg.

伊勢湾周辺の砂質海浜ではしばしば得られている。本州・四国・九州の本土外洋沿岸に分布する本邦固有種のように、平戸島と対馬からも記録されている。また韓国の済州島からの記録もあるが (PAIK *et al.*, 1995: 394), この記録の出典 (LEE *et al.*, 1985) では *Ludius niponensis* LEWIS, 1984 となっているので、或いは *Elater niponensis* (LEWIS, 1894) オオクロナガコメツキと誤認した可能性もある。この両種は形態も生息環境も大きく異なり疑問は残るが、資料未見で不明のため現状では分布域から除外すべきであろう。南西諸島からの本属分布の記録例は無いが、台湾には別種 *M. (S.)*

babai が分布する。

Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus (MOTSCHULSKY, 1861) サビキコリ

鈴鹿市, 2♀♀, 24. V. 2007, 尾崎美香 leg.; 同加佐登神社, 2♂♂, 1♀, 26. VI. 2004, 生川展行 leg.; 西庄内町, 2♂♂, 3♀♀, 9. VI. 2004, 稲垣慎吾 leg.; 1♂, 1♀, 13. V. 2006, 生川展行 leg.; 伊船町御幣川, 1♂, 13. VIII. 2004, ditto; 1♀, 7. VII. 2007, 尾崎美香 leg.; 八野町, 1♀, 8. VI. 2005, ditto; 和泉町, 3♀♀, 14. VIII. 2005, 川添昭夫 leg.; 長沢町長瀬神社, 1♀, 22. V. 2005, 小島弘昭 leg.; 甲斐町, 2♂♂, 21. V. 2007, 尾崎美香 leg.; 国府町, 1♀, 3. VI. 2007, ditto; 小岐須町, 1♀, 12. V. 2007, 尾崎柚香 leg.; 庄内町鈴鹿川, 2♂♂, 19. VIII. 2007, 横関秀行 leg.; 亀山市安坂山町, 1♂, 1♀, 12. V. 2004, 川添昭夫 leg.; 安知本町中の川 (LT), 9♂♂, 4♀♀, 15. VII. 2005, 横関秀行 leg.; 新所町関ニュータウン (バケツ), 1♂, 5. V. 2005, ditto; 加太北在家, 1♂, 5. V. 2005, ditto; 関町鷺山小野川, 1♂, 17. VII. 2005, ditto; 関ヶ丘破魔射場池, 3♂♂, 1♀, 21. VI. 2006, ditto; 鷺山 (LT), 1♂, 18. VIII. 2007, ditto; 伊勢市神宮林彦谷, 1♀, 15. VI. 2002, 生川展行 leg.; 大床谷, 1♂, 15. VI. 2002, ditto.

Agrypnus (Agrypnus) cordicollis (CANDÈZE, 1865) ムナビロサビキコリ

鈴鹿市西庄内町, 2♂♂, 17. V. 2004, 川添昭夫 leg.; 一ノ谷, 1♂, 30. IV. 2005, 生川展行 leg.; (FIT), 1♂, 14. VI. 2004, 横関秀行 leg.; 小岐須町, 1♂, 19. V. 2007, 尾崎柚香 leg.; 同小岸大神社, 2♀♀, 20. VII. 2004, 横関秀行 leg.; 長沢町長瀬神社, 4♂♂, 5♀♀, 22. V. 2005, 小島弘昭 leg.; 亀山市野登山, 1♂, 4. VI. 2005, 生川展行 leg.; 石水溪, 1♀, 19. VI. 2004, 横関秀行 leg.; 白木町 (バケツ), 2♂♂, 6. VII. 2006, ditto; 関町坂下鈴鹿峠 (FIT), 1♀, 22. VII. 2006, ditto; 伊勢市神宮林大床谷, 1♀, 27. V. 2002, 生川展行 leg.

Agrypnus (Sabikikorius) fuliginosus (CANDÈZE, 1865) ホソサビキコリ

鈴鹿市三宅町, 1 ex., 14. V. 2005, 生川展行 leg.; 西庄内町, 1♂, 13. V. 2006, ditto; 亀山市安坂山町石水溪 (LT), 1♂, 19. VI. 2004, 横関秀行 leg.; 三寺町石神社 (FIT), 2♂♂, 12. V. 2005, ditto; 関ヶ丘破魔射場池, 1♂, 21. VI. 2006, ditto.

Agrypnus (Colaulon) scrofa scrofa (CANDÈZE, 1873) ヒメサビキコリ

鈴鹿市伊船町御幣川, 1 ex., 3. VII. 2004, 生川展行 leg.; 6 exs., 13. VIII. 2004, ditto; 1♂, 1♀, 6. VIII. 2006, ditto; 小岐須町小岐須溪谷, 1♂, 24. IV. 2005, 近藤恭子 leg.; 1♀, 8. IX. 2007, 尾崎美香 leg.; (LT), 4 exs., 8. IX. 2007, 生川展行 leg.; 庄野町鈴鹿川, 1♂, 7. VIII. 2005, 南口博 leg.; 1♀, 7. VIII. 2005, 生川展行 leg.; 1♂, 4. V. 2007, ditto; 弓削町, 2 exs., 10. V. 2007, 尾崎美香 leg.; 2 exs., 12. V. 2007, ditto; 同鈴鹿川, 2♂♂, 1♀, 22. IV. 2006, 生川展行 leg.; 山本町椿大神社, 2♂♂, 1♀, 22. IV. 2005, 中西元男 leg.; 亀山市野村町鈴鹿川, 12 exs., 14. XII. 2003, 中西元男 leg.; 布気町鈴鹿川, 34 exs., 15. IV. 2004, 横関秀行 leg.; 関町鷺山小野川, 1 ex., 17. VII. 2005, ditto; 関町白木一色明星ヶ岳登山口 (LT), 1♀, 11. VIII. 2005, ditto; 野登山, 3 exs., 21. IV. 2007, 生川展行 leg.; 石水溪, 2 exs., 11. VIII. 2007, ditto.

Agrypnus (Colaulon) hypnicola (KISHII, 1964) コガタヒメサビキコリ

鈴鹿市, 1 ex., 24. V. 2007, 尾崎美香 leg.; 同庄野町鈴鹿川, 4 exs., 3. VI. 2004, 稲垣政志 leg.; 1 ex., 20. IX. 2004, 生川展行 leg.; 1 ex., 17. X. 2004, ditto.

本県産の本種についてはかつて市川太氏が四日市市の小牧町から得られた、極めて興味深い雌雄の2頭について本誌上で述べた (No. 81: 1-2)。この内、雄個体はそれまでに観た多くの資料中では最も小型 (6.75 mm) で、体色も一般的な赤褐色を呈し、当初別種の可能性を視野に検討を重ねたが、後に千葉・大阪・山口の各地からの本種資料にもこの様な個体が混じていることが判明した。一般に前種の小型個体に類似するが、本種の上翅間室点刻は円形大型で、前種では極めて小型の点状である。

Lacon (Lacon) parallelus parallelus (LEWIS, 1894) コガタノサビコメツキ (写真2)

伊勢市神宮林内宮, 1 ex., 23. VIII. 2003, 生川展行 leg.

次種と共に燈火誘引性の強い種で、分布域も生息環境もほぼ同様である。本県からは本シリーズ

で菰野町竹成, 四日市市小牧町, 尾鷲市九木神社の資料を検しているが少ない。本属の種は幼生時期の栄養量差によると見られる体形の差が著しいのが一般であるが, これまでに検した南西諸島産の個体では更に顕著に小型で, 他の特徴と共に別亜種 (*amamiensis*) とされている。

Lacon (Alaotypus) maeklinii (CANDÈZE, 1865) オオサビコメツキ (写真3)

鈴鹿市西庄内町野登山, 1♀, 24. VII. 2004, 生川展行 leg.; 1♂, 1♀, 27. VII. 2006, ditto; 一ノ谷, 1♀, 28. VII. 2004, 横関秀行 leg.; 亀山市白木町国分寺 (LT), 2 exs., 19. VII. 2005, 横関秀行 leg.; 野登山 (LT), 1♂, 10. VIII. 2007, ditto; 伊勢市神宮林大床谷, 1 ex., 3. VIII. 2002, 生川展行 leg.; 1 ex., 8. VIII. 2002, ditto; 彦谷, 1 ex., 29. V. 2003, ditto; 内宮, 2 exs., 23. VIII. 2003, ditto.

本州産本亜属の種は本種のみとされてきたが, 最近検した鳥取県と広島県産の資料は南西諸島に広く分布する *L. (A.) yayeyamanus* ヤエヤマサビコメツキと見なされるものであった。なお中国地方西部での本種オオサビコメツキの分布は確認している。両者はよく似ているので互いに亜種関係にあると見ていたが(岸井, 1985: 8), 本種とはより小型, 触角第3節が長く, 前胸背板後角部端は鈍角で外側方に突出しないなどの点で異なり, 両者の生殖器構造の差からも別種であることが確認された。更に九州では鹿児島県本土でのこの2種混棲は確かで, 本州でも西部地区ではそのようである。

Cryptalaus berus (CANDÈZE, 1865) ウバタマコメツキ

亀山市白木町国分寺, 1♀, 29. VI. 2004, 横関秀行 leg.; 関町白木一色明星ヶ岳登山口 (LT), 1♀, 11. VIII. 2005, ditto; 関ヶ丘破魔射場池, 1♂, 21. VI. 2006, ditto; 伊勢市神宮林彦谷, 1♀, 4. VII. 2002, 生川展行 leg.

Tetrigus lewisi CANDÈZE, 1873 オオクシヒゲコメツキ

鈴鹿市西庄内町野登山 (LT), 2♂♂, 24. VII. 2004, 生川展行 leg.; 1♂, 8. VIII. 2004, 横関秀行 leg.; 亀山市安坂山町野登山下 (バケツ), 3♂♂, 1♀, 21. VII. 2004, 横関秀行 leg.; 白木町国分寺 (バケツ), 1♀, 28. VII. 2004, ditto; (LT), 1♂, 19. VII. 2005, ditto.

本邦全域と大部分の付属諸島から知られ, 国外では中国南東部からインドシナを含め東アジア全域で見られる。燈火や樹液などに誘引されることが多いが, 里山が少なくなり神社などの社叢林も貧弱になったためか, 最近では個体数の減少傾向が強いようである。

Prodrasterius agnatus (CANDÈZE, 1873) マダラチビコメツキ

鈴鹿市伊船町御幣川, 1♀, 3. VII. 2004, 生川展行 leg.; 1♂, 13. VIII. 2004, ditto; 同竜ヶ池 (LT), 1 ex., 19. VI. 2005, 横関秀行 leg.; 庄野町, 1♂, 9. VI. 2005, 稲垣政志 leg.; 鈴鹿川, 4 exs., 23. V. 2005, 生川展行 leg.; 3 exs., 7. VIII. 2005, 南口博 leg.; 6♂♂, 1♀, 7. VIII. 2005, 生川展行 leg.; 西庄内町鈴鹿川, 1♂, 10. VI. 2006, ditto; 地子町金生水, 1♂, 24. VI. 2004, ditto; 磯山町鼓ヶ浦海岸, 1♂, 15. VII. 2004, ditto; 亀山市関町鷲山小野川, 1♀, 17. VII. 2005, 横関秀行 leg.; 伊勢市神宮林大床谷, 1 ex., 15. VI. 2002, 生川展行 leg.; 1 ex., 4. VII. 2002, ditto.

Ascoliocerus saxatilis saxatilis (LEWIS, 1894) ヒラタクロコメツキ

鈴鹿市小岐須町, 5♀♀, 9. VI. 2004, 村木武則 leg.; 小岐須溪谷, 3♂♂, 1♀, 31. III. 2005, 横関秀行 leg.; 3♀♀, 4. VI. 2006, 生川展行 leg.; 同御幣川, 1♂, 12. V. 2007, ditto; 山本町入道ヶ岳, 1♀, 3. VI. 2006, ditto; 伊船町鈴鹿川, 1♀, 15. IV. 2007, ditto; 同御幣川, 1♀, 7. IV. 2007, ditto; 亀山市安坂山町, 1♂, 1♀, 8. III. 2006, 横関秀行 leg.; 野登山, 1♀, 21. IV. 2007, 生川展行 leg.

Ascoliocerus fluviatilis (LEWIS, 1894) キアシヒラタクロコメツキ

亀山市関町掛中津川, 1♂, 6. IV. 2005, 横関秀行 leg.; 金場, 2♂♂, 1♀, 27. IV. 2005, ditto; 加太南在家アマタノ川, 2♀♀, 13. IV. 2005, ditto.

Nothodes marginicollis (LEWIS, 1894) ウスチャイロカネコメツキ

亀山市両尾町, 1♂, 18. IV. 2004, 川添昭夫 leg.

Kibunea eximia (LEWIS, 1894) ムラサキヒメカネコメツキ

鈴鹿市山本町椿神社, 1♂, 27. IV. 2005, 村木武則 leg.; 亀山市野登山, 1♂, 4. VI. 2005, 生川展行 leg.; 安坂町 (MT), 1♂, 1. V. 2004, 川添昭夫 leg.; 両尾町, 1♂, IV. 2007, ditto; 関町坂下鈴鹿峠, 1

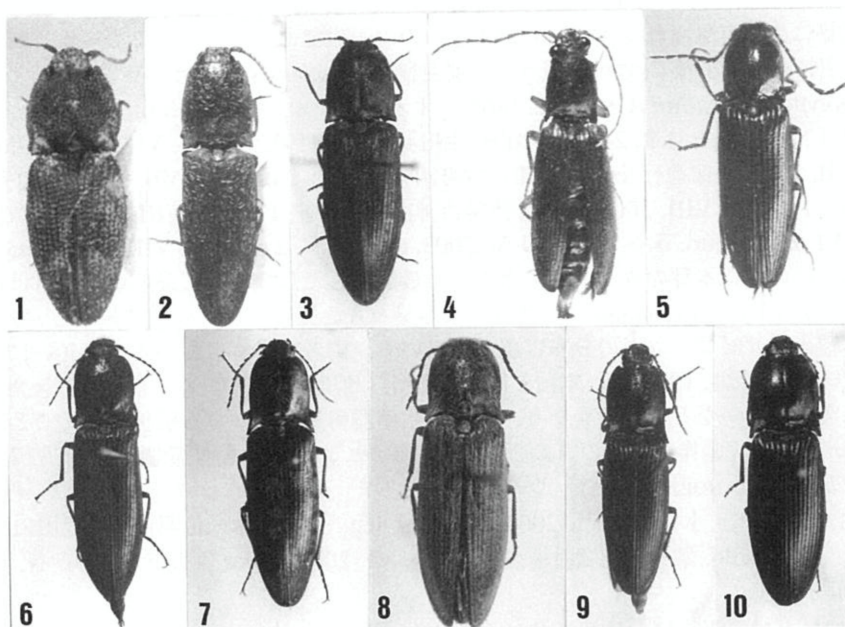


写真1-10. 1, スナサビキコリ (♀, 鼓ヶ浦海岸, 6.1 mm); 2, コガタノサビコメツキ (♀, 神宮林内宮, 10.2 mm); 3, オオサビコメツキ (♀, 国分寺, 16.2 mm); 4, メダカツヤハダコメツキ (♂, 関町関ヶ丘, 9.9 mm); 5, ヒメクロツヤハダコメツキ (♂, 野登山, 10.5 mm); 6, オオヒラタコメツキ (♂, 加太不動滝, 20.5 mm); 7, ヨコヅナシモフリコメツキ (♀, 野登山, 21.6 mm); 8, スズキシモフリコメツキ (♂, 両尾町, 11.1 mm); 9, アカヒゲヒラタコメツキ (♂, 一ノ谷, 16.0 mm); 10, ditto (♀, 小岸大神社, 20.5 mm)

♂, 28. V. 2007, 横関秀行 leg.

上翅が美しい紫色の目立つ種で, 低山地の花上で得られるが少ない. 属名は古くから近畿圏の著名な昆虫採集地の一つでもある貴船溪谷に因んだ名で, その基本種とされた (KISHII, 1966: 46). この属名については一時スペインの SANCHEZ-RUIZ (1996: 108) により *Limonius* 属に変更されたが, 再検討でその属基本種指定の経過に疑問点があり訂正復活した. 本属の特徴は触角第2・3節は著しく短小亜球形, 次節以降は大きく三角形の鋸歯状, 前胸腹側板後縁は別られず, その内縁線は広く二重状で前端は大きく深い溝状などと独特である. チェコ共和国の LAIBNER (2000: 70) は, 前胸背板側方体毛は長い剛毛状のものに普通の短毛を密生し, 中後脚の爪下面は中央近くから別れるのを本属の主たる特徴としていて, 本種でもそのようになっている. 本属の種は現在邦産の5種と欧産1種が知られていて, 本種は次種と共に多くはないが普遍的に分布する.

Kibunea approximans (LEWIS, 1894) キアシヒメカネコメツキ

鈴鹿市西庄内町一ノ谷, 1♀, 30. IV. 2005, 生川展行 leg.

三重県ではこれまで本種は比較的多く得られているが, 近似の *K. narukawai* ホソヒメカネコメツキも野登山で1雄が得られているので注意を要する. これはより細く小型で山梨県鳳凰山の御座石鉾泉と本県からのみ知られ, 脚部は鮮明な黄橙色にはならず暗色部が多い.

Limoniscus atricolor (LEWIS, 1894) クロカネコメツキ

鈴鹿市三宅町(FIT), 1♀, 11. V. 2006, 横関秀行 leg.

Limoniscus vittatus (CANDÈZE, 1873) タテスジカネコメツキ

鈴鹿市山本町椿神社, 1♀, 28. IV. 2005, 村木武則 leg.; 小岐須町小岐須溪谷, 1♀, 28. IV. 2005, 稲垣政志 leg.; 亀山市両尾町, 1♀, IV. 2004, 川添昭夫 leg.

Stenagostus umbratilis (LEWIS, 1894) オオツヤハダコメツキ

鈴鹿市加佐登神社, 1 ex., 26. VI. 2004, 生川展 leg.; 西庄内町野登山 (LT), 6 exs., 24. VII. 2004, ditto; 1♂, 1♀, 27. VII. 2006, ditto; 1♀, 16. VIII. 2006, 村木武則 leg.; 山本町新田池, 1♂, 16. VII. 2005, 生川展 leg.; 大久保町, 1♂, 1♀, 5. VIII. 2005, 村木武則 leg.; 同入道ヶ岳, 1♂, 1♀, 29. VII. 2006, 間野高裕 leg.; 同奥ノ谷 (LT), 2♂♂, 2♀♀, 30. VII. 2006, 生川展 leg.; 小岐須町小岐須溪谷, 1♀, 13. VIII. 2006, ditto; 1♀, 8. IX. 2007, 尾崎美香 leg.; 亀山市野登山 (LT), 1♂, 5. VIII. 2006, 横関秀行 leg.; 1♀, 10. VIII. 2007, ditto; 関ヶ丘破魔射場池, 1♂, 21. VI. 2006, ditto; 安坂山町石水溪(LT), 1♂, 1♀, 19. VI. 2004, ditto; 白木町国分寺 (LT), 2♀♀, 19. VII. 2005, ditto; 鈴鹿峠, 1♀, 4. V. 2006, ditto; 関町白木一色明星ヶ岳登山口 (LT), 1♀, 11. VIII. 2005, ditto; 石水溪, 1♂, 11. VIII. 2007, 生川展 leg.; 伊勢市神宮林大床谷, 1 ex., 4. VII. 2002, 生川展 leg.; 3 exs., 7. VII. 2002, ditto; 彦谷, 1 ex., 4. VII. 2002, ditto.

Medakathous jactatus jactatus (LEWIS, 1894) メダカツヤハダコメツキ (写真4)

鈴鹿市西庄内町野登山, 1♂, 14. VII. 2004, 横関秀行 leg.; 2♂♂, 21. VII. 2004, ditto; 2♂♂, 24. VII. 2004, 生川展 leg.; 1♂, 8. VIII. 2004, 横関秀行 leg.; 加佐登町加佐登神社, 1♂, 24. VI. 2006, 生川展 leg. (黒化型); 亀山市関町関ヶ丘 (FIT), 13♂♂, 5. VII. 2005, 横関秀行 leg. (正常型: 2; 黒化型: 11); 伊勢市神宮林大床谷, 1♂(黒化型), 8. VI. 2003, 生川展 leg.

三重県からの資料は多く検しているが, 上記の伊勢神宮林大床谷, 加佐登神社及び関町関ヶ丘の殆どの雄資料は上翅が完全な黒化型のものであった. 上翅が暗褐色になる個体はこれまでもしばしば見ており, 前胸背側縁部が黄橙色のものもあるが, 上翅の完全な黒化個体は初めてである.

Hemicrepidius (Hemicrepidius) sinuatus sinuatus (LEWIS, 1894) コクロットヤハダコメツキ

鈴鹿市西庄内町野登山, 1♂, 21. VII. 2004, 横関秀行 leg.; 1♀, 28. VII. 2004, ditto; 1♂, 26. VII. 2006, 村木武則 leg.; 小岐須町小岸大神社, 1♂, 30. VI. 2004, 横関秀行 leg.; 三宅町, 1♀, 20. VII. 2006, ditto; 亀山市白木町国分寺, 1♂, 19. VI. 2004, 横関秀行 leg.; 関町坂下鈴鹿峠 (FIT), 1♂, 22. VII. 2006, ditto; 野登山, 1♂, 31. VII. 2007, ditto; 1♂, 16. VII. 2007, 生川展 leg.; 1♂, 29. VII. 2007, ditto.

Hemicrepidius (Hemicrepidius) secessus secessus (CANDÈZE, 1873) クロットヤハダコメツキ

鈴鹿市西庄内町一ノ谷, 2♀♀, 21. VII. 2004, 横関秀行 leg.; 野登山, 7♂♂, 1♀, 21. VII. 2004, ditto; 同 (LT), 1♂, 24. VII. 2004, 生川展 leg.; 2♂♂, 1♀, 28. VII. 2004, 横関秀行 leg.; 1♂, 5. VIII. 2006, 生川展 leg.; 小岐須町小岸大神社, 1♂, 1♀, 30. VI. 2004, 横関秀行 leg.; 八野町, 1♂, 8. VI. 2005, 生川展 leg.; 三宅町(バケツ), 1♂, 18. VI. 2005, 横関秀行 leg.; 山本町, 1♂, 25. VI. 2005, 生川展 leg.; 大久保町入道ヶ岳, 1♂, 1♀, 6. VII. 2005, 村木武則 leg.; 1♀, 20. VII. 2005, ditto; 1♂, 30. VII. 2006, 河北均 leg.; 宮妻林道, 2♂♂, 7. VII. 2005, 生川展 leg.; 甲斐町鈴鹿川, 1♂, 1♀, 17. VI. 2006, ditto; 加佐登町加佐登神社, 2♀♀, 24. VI. 2006, ditto; 亀山市野登山, 1♂, 29. VII. 2007, 生川展 leg.; 1♂, 2♀♀, 5. VIII. 2006, 横関秀行 leg.; (LT), 1♀, 5. VIII. 2006, ditto; 関ヶ丘破魔射場池, 1♂, 21. VI. 2006, ditto; 関町関ヶ丘 (FIT), 1♀, 5. VII. 2005, ditto; 能褒野町のほの神社, 1♀, 19. VI. 2004, 山口照美 leg.; 白木町国分寺, 1♂, 19. VI. 2004, 横関秀行 leg.

Hemicrepidius (Hemicrepidius) desertor desertor (CANDÈZE, 1873) ヒメクロットヤハダコメツキ (写真5)

亀山市野登山, 1♂, 5. VIII. 2006, 横関秀行 leg.; 伊勢市神宮林大床谷, 4♀♀, 7. VII. 2002, 生川展 leg.

一般に体各部の色彩変異に富み異常型として命名されたものも多く, 上翅色彩も茶褐色化と光沢色調変異(単純, 青緑色, 青紫色など)に変異が多い. 中部以北地域ではほぼ半数個体では上翅が茶褐または黄褐色であるが, 東海以西地域では通常の黒色型が多く茶褐色型は10-15%程度で著しい差がある. 今回の4雌個体は全て通常の黒色上翅で, 光沢は単純~青緑色のものである. 本県からはこれまでに多くの資料を検しているが, 上翅茶褐色個体は野登山(1♂, 26. VII. 1992)と明神岳(1♂,

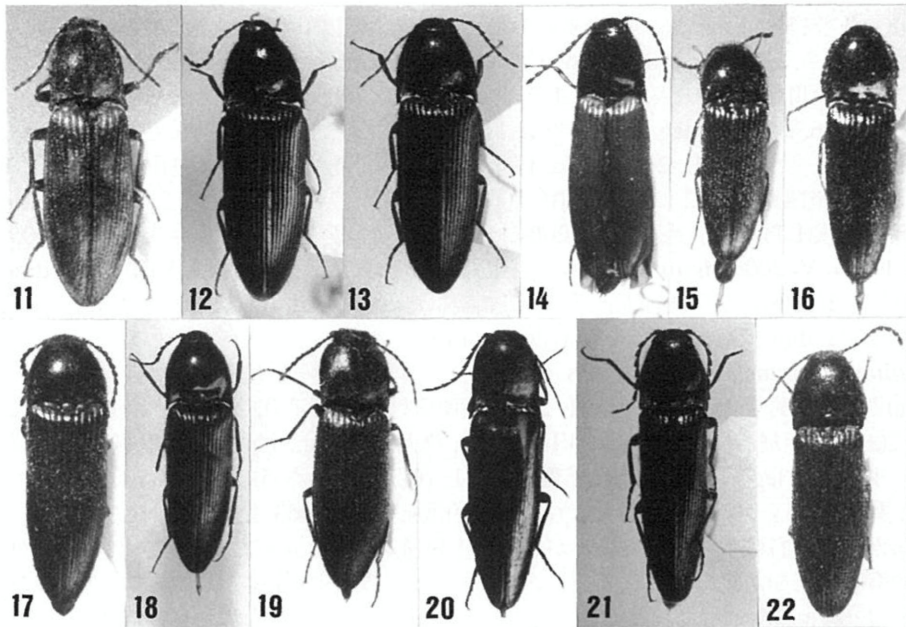


写真 11–22. 11, ウストラフコメツキ (♀, 甲斐町鈴鹿川, 7.0 mm); 12, ミヤコアラハダチャイロコメツキ (♂, 神宮林大床谷, 12.1 mm); 13, アラハダチャイロコメツキ (♂, 神宮林大床谷, 11.2 mm); 14, ホソアカコメツキ (♂, 関町坂下, 9.0 mm); 15, タンバコクロコメツキ (♀, 一ノ谷, 7.3 mm); 16, キソコクロコメツキ (♀, 椿神社, 7.0 mm); 17, タカハチクロコメツキ (♂, 安坂山町, 9.2 mm); 18, ケバカクロコメツキ (♀, 入道ヶ岳, 13.4 mm); 19, ババムナビロコメツキ (♂, 伊船町鈴鹿川, 9.8 mm); 20, ヒメオオナガコメツキ (♂, 野登山, 18.1 mm); 21, ナガチャクシコメツキ (♂, 一ノ谷, 11.8 mm); 22, マルクビクシコメツキ (♀, 一ノ谷, 8.6 mm)

18. VII. 1998) の 2 個体のみである。

Acteniceromorphus kurofunei (MIWA, 1934) ミヤマフトヒラタコメツキ

鈴鹿市大久保町入道ヶ岳, 1♀, 16. VI. 2004, 村木武則 leg.; 1♂, 11. V. 2005, ditto; 宮妻林道, 1♂, 7. VII. 2005, 生川展行 leg.

Corymbitodes gratus (LEWIS, 1894) ドウガネヒラタコメツキ

鈴鹿市西庄内町一ノ谷, 1♀, 30. IV. 2005, 生川展行 leg.; 山本町, 1♀, 21. V. 2005, ditto; 椿神社, 1♂, 28. IV. 2005, 村木武則 leg.; 大久保町; 1♂, 1. VI. 2005, ditto.

Paraphotistus notabilis notabilis (CANDÈZE, 1873) オオヒラタコメツキ (写真 6)

亀山市加太不動滝 (LT), 1♂, 5. V. 2005, 横関秀行 leg.; 関町坂下鈴鹿峠, 1♀, 6. VI. 2007, ditto.

本邦固有の属で 3 種 1 亜種が分布する。本種は新潟と群馬県以西の本州、四国、九州の各地から知られるが余り多くない。済州島を含む朝鮮半島からの報告例もあるが、これらは共に疑わしく *Actenicerus* 種の大型のもの (*A. infirmus*) の誤認の可能性がある。

Actenicerus giganteus KISHII, 1975 ヨコヅナシモフリコメツキ (写真 7)

亀山市野登山, 1♀, 31. VII. 2007, 横関秀行 leg.

野登山及び菰野町の雲母峰などからこれまでも報告例があるが多くはない。本県では藤原岳及び大杉谷などからよく似た大型種の *A. kunimi* クニミシモフリコメツキも知られる。

Actenicerus orientalis (CANDÈZE, 1873) オオシモフリコメツキ

鈴鹿市三宅町, 2♀♀, 14. V. 2005, 生川展行 leg.; 1♀, 24. V. 2005, 飯場晴也 leg.; 西庄内町, 1♀,

14. V. 2006, 生川展行 leg.

本属は唯一のヨーロッパ産種が基本種であるが、極東と言われる地域で多くの種に分化している。ポーランドのTARNAWSKI (1996: 601–604) のチェックリストによれば、日本以外のアジア地区で知られるものは6種のみであるが、本邦では調査研究が進んだためもあり、現時点で25種4亜種ほどが知られ、更に増えそうな状況である。邦産大型種で上翅毛班が明瞭な個体は従来本種と見られていた傾向が強かったが、雄生殖器構造の検討で多くの別種個体群の存在が判明した。本種は現在、本州・四国・九州の殆どの地域と佐渡島から報告されているが、四国と九州本土分布は疑わしく、本州産のものとは異なる特徴が認められ再検が必要で、このうち四国分布個体群には *A. naomii* シモフリコメツキの名称が付されている。三重県からは本種類似の大型シモフリコメツキ類としては前種と、*A. ashiaka* アカアシシモフリコメツキ及びクニミシモフリコメツキが記録されている。本種の報告例は少なく、このシリーズでは今回の4雌個体が初めてである。

Actenicerus pruinus MOTSCHULSKY, 1861 シモフリコメツキ

鈴鹿市岸岡町岸岡山 (FIT), 2♀♀, 31. V. 2005, 横関秀行 leg.; 亀山市両尾町, 2♂♂, 14. IV. 2004, 川添昭夫 leg.; (MT), 5♂♂, 14. IV. 2004, ditto; 1♂, 18. IV. 2004, ditto; 1♂, IV. 2007, ditto; 関町筆捨山, 1♂, 1. V. 2004, 生川展行 leg.; 三寺町石神社 (FIT), 1♀, 5. V. 2005, 横関秀行 leg.; 野登山 (FIT), 1♂, 10–17. IV. 2004, 池田正清 leg.

Actenicerus kiashianus (MIWA, 1928) ホソシモフリコメツキ

鈴鹿市西庄内町野登山, 1♀, 24. V. 2004, 横関秀行 leg.; 2♂♂, 28. IV. 2005, 稲垣政志 leg.; 大久保町入道ヶ岳, 1♀, 16. VI. 2004, 村木武則 leg.; 山本町入道ヶ岳, 3♂♂, 4. V. 2006, 生川展行 leg.; 小岐須町宮指路岳, 1♀, 31. V. 2006, 村木武則 leg.; 1♂, 7. VI. 2006, ditto.

Actenicerus yamashiro KISHII, 1998 コガタシモフリコメツキ

鈴鹿市西庄内町野登山, 2♂♂, 1♀, 24. V. 2004, 横関秀行 leg.; 亀山市野登山 (FIT), 3♂♂, 10–17. IV. 2004, 池田正清 leg.; 6♂♂, 17–24. IV. 2004, ditto; 両尾町, 1♂, 18. IV. 2004, 川添昭夫 leg.

Actenicerus suzukii suzukii (MIWA, 1928) スズキシモフリコメツキ (写真8)

亀山市両尾町, 1♂, IV. 2004, 川添昭夫 leg.

本種は京都西郊の花園辺りで得られた資料に、採集者鈴木氏の名を種小名として記載された。金属光沢をもつ赤銅色に近い体色と、雄個体の殆どで上翅が一様な灰白色毛に被われ、霜降り状斑紋が認められず、更に局所的な分布を示す点など本属種では特異な種である。三輪は後に *A. pruinus* シモフリコメツキの小型個体で脱皮後間もないものの可能性を述べ (三輪, 1933: 67, 73), 更に岐阜からの資料に基づいて変種 (var.) としている。しかし筆者は京都嵯峨野西北部の嵐山に近い雑木林で、4–5月頃多数個体 (68♂♂, 19♀♀) の発生に遭遇し、詳細な検討の結果、独立種に戻した (KISHII, 1964: 27)。その後、山口県十種ヶ峰でも多産する事が分かり (岸井, 2004: 115–116)、またそれぞれの地域の個体群間に形態上の明らかな変異が認められ、幾つかの亜種群が知られている。

Actenicerus aerosus aerosus (LEWIS, 1879) ヘリアカシモフリコメツキ

鈴鹿市西庄内町野登山, 1♀, 24. V. 2004, 横関秀行 leg.; 1♀, 29. V. 2004, ditto; 1♀, 28. IV. 2005, 村木武則 leg.; 山本町, 2♂♂, 21. V. 2005, 生川展行 leg.; 亀山市両尾町, 2♂♂, 18. IV. 2004, 川添昭夫 leg.; 1♂, IV. 2007, ditto; (MT), 2♂♂, 14. IV. 2004, ditto; 大森町, 1♀, 15. V. 2005, 生川展行 leg.

Calambus mundulus (LEWIS, 1879) チャグロヒラタコメツキ

鈴鹿市小岐須町宮指路岳, 1♂, 1♀, 31. V. 2006, 村木武則 leg.

Calambus japonicus (FLEUTIAUX, 1902) クロツヤヒラタコメツキ

鈴鹿市西庄内町野登山, 1♀, 6. VII. 2004, 横関秀行 leg.; 亀山市安坂町 (MT), 1♀, 1. V. 2004, 川添昭夫 leg.

Neoprstilophus serrifer serrifer (CANDÈZE, 1873) アカヒゲヒラタコメツキ (写真9, 10)

鈴鹿市西庄内町一ノ谷, 2♂♂, 29. V. 2004, 横関秀行 leg.; 1♂, 5. VI. 2004, ditto; 小岐須町小岸大

神社, 1♀, 14. VI. 2004, ditto; 小岐須町小岐須溪谷, 1♂, 12. VI. 2005, 生川展行 leg.; 山本町椿大神社, 1♂, 29. V. 2004, ditto; 長沢町長瀬神社, 1♀, 27. V. 2004, 稲垣政志 leg.

ヒラタコメツキの名称に相応しい体形を持つ種であるが、本邦産本族のものとしてはやや異質な感の強い種で、本州から九州まで広く分布し、性別による体形の差が大きい。全世界からほぼ30種記載され、唯一の本属の本邦固有種で、本種に似たヨーロッパ南東部分布の属基本種 *depressus* とスペイン産のもう1種以外は20種程がアフリカ産で、他はマダガスカル・南アジア・北米などに分布する。朝鮮半島からも多くの資料記録が報告 (KIM, 1978: 114, pl. xiii, EL. 12) されているが、付された写真の個体は明らかに本属以外の種で、多分 *Melanotus* 種と見られるもので朝鮮半島分布は疑わしい。

Selatosomus (Pristilophus) vagepictus (LEWIS, 1894) ウストラフコメツキ (写真 11)

鈴鹿市甲斐町鈴鹿川, 1♀, 6. V. 2006, 生川展行 leg.

本県からは既に一志町 (中谷, 1970: 3-7) や津市 (大平・市橋, 1975: 93) からの報告もあるが、最近の記録例は無いようで、全国的にも少なくなっているようである。

Denticollis nipponensis nipponensis OHIRA, 1973 ベニコメツキ

鈴鹿市小岐須町宮指路岳, 1♂, 1♀, 31. V. 2006, 村木武則 leg.; 1♀, 14. VI. 2006, ditto; 西庄内町野登山, 1♂, 21. V. 2006, 生川展行 leg.; 亀山市安坂山町, 1♂, 12. V. 2004, 川添昭夫 leg.; 坂本 (FIT), 1♀, 24. V. 2004, 池田正清 leg.

Denticollis miniatus (CANDÈZE, 1885) ミヤマベニコメツキ

鈴鹿市小岐須町宮指路岳, 2♀♀, 31. V. 2006, 村木武則 leg.; 2♂♂, 7. VI. 2006, ditto; 1♀, 14. VI. 2006, ditto; 亀山市安坂山町, 1♂, 12. V. 2004, 川添昭夫 leg.; 野登山, 1♀, 4. VI. 2005, 生川展行 leg.

Gamepenthès versipellis (LEWIS, 1894) メスアカキマダラコメツキ

鈴鹿市西庄内町野登山, 3♂♂, 14. VII. 2004, 横関秀行 leg.; 1♀, 21. VII. 2004, ditto; 1♂, 3♀♀, 8. VIII. 2004, ditto.

Agaripenthès helvolus (CANDÈZE, 1873) ヒメホソキコメツキ

鈴鹿市西庄内町野登山, 1♂, 21. VII. 2004, 横関秀行 leg.; 小岐須町小岸大神社, 1♀, 25. VIII. 2004, ditto; 亀山市野登山 (LT), 3♂♂, 2♀♀, 10. VIII. 2007, 横関秀行 leg.

Hayekpenthès pallidus pallidus (LEWIS, 1894) ホソキコメツキ

鈴鹿市西庄内町野登山, 1♂, 24. VII. 2004, 生川展行 leg.; 1♂, 16. VIII. 2006, 村木武則 leg.; 小岐須町小岸大神社, 1♀, 30. VI. 2004, 横関秀行 leg.; 大久保町入道ヶ岳, 1♀, 30. VII. 2006, 生川展行 leg.; 亀山市野登山, 1♀, 26. VIII. 2007, 生川展行 leg.; (LT), 1♀, 5. VIII. 2006, 横関秀行 leg.; 1♂, 31. VII. 2007, ditto; 1♂, 1♀, 10. VIII. 2007, ditto.

Haterumelater bicarinatus bicarinatus (CANDÈZE, 1873) チャイロコメツキ

鈴鹿市岸岡町岸岡山, 1♂, 8. VIII. 2004, 安田鷹生 leg.; 伊勢市神宮林杉谷, 1♂, 27. VII. 2002, 生川展行 leg.; 内宮, 1♂, 23. VIII. 2003, ditto.

Reitterelater miyako (KISHII, 1969) ミヤコアラハダチャイロコメツキ (写真 12)

伊勢市神宮林大床谷, 1♂, 7. VII. 2002, 生川展行 leg.

次種と共にコメツキムシ族に所属する種で、*Ectamenogonus* が属名として長く安定的に用いられていた。しかしこの属は PLATIA et CATE (1990: 111-114) によりツヤケシコメツキ族のものとして、新設の上記属名が提唱され、本種も PLATIA によりこの属の種とされた。次種と共に主として低山地の照葉樹林帯で灯火または樹液に誘引されることが多くはない。次種によく似ているが、前胸背板はより細く中央縦凹溝はより明瞭で、点刻は疎、雄生殖器側片先端は長三角形状である。現在、石川・三重以西の本州と宮崎県から記録されている。

Reitterelater rugipennis (LEWIS, 1894) アラハダチャイロコメツキ (写真 13)

亀山市野登山, 1♀, 24. VI. 2004, 中西元男 leg.; 安坂山町石水溪 (パケツ), 1♂, 21. VII. 2004, 横関秀行 leg.; 伊勢市神宮林大床谷, 1♂, 4. VII. 2002, 生川展行 leg.

神奈川県相模大山と京都の資料で記載され、本州・四国・九州のほぼ全域と佐渡島・冠島・御蔵島・高知沖ノ島から記録されている。韓国からの記録もあるが確認していない。

Ampedus (Miwaelater) carbunculus (LEWIS, 1879) ヒメクロコメツキ

鈴鹿市西庄内町, 1♀, 9. VI. 2004, 稲垣慎吾 leg.; 1♂, 5. V. 2005, 生川展行 leg.; 同野登山, 1♀, 26. VII. 2006, 村木武則 leg.; 同椿大神社, 1♂, 4. VI. 2006, 中西元男 leg.; 小岐須町小岸大神社, 1♀, 7. V. 2004, 横関秀行 leg.; 1♀, 22. V. 2004, ditto; 滝ヶ谷, 1♀, 15. V. 2005, 生川展行 leg.; 山本町椿神社, 2♀♀, 27. IV. 2005, 村木武則 leg.; 2♀♀, 28. IV. 2005, ditto; 大久保町入道ヶ岳, 1♂, 6. VII. 2005, ditto; 亀山市安坂山町, 1♀, 12. V. 2004, 川添昭夫 leg.; 両尾町, 2♀♀, IV. 2004, ditto; 石水溪, 1♂, 19. VI. 2004, 横関秀行 leg.; 新所町関ニュータウン(FIT), 1♀, 5. V. 2005, ditto; 白木町(FIT), 1♀, 1. VI. 2006, ditto; 関町坂下鈴鹿峠, 1♂, 22. V. 2006, ditto; 1♀, 6. VI. 2007, ditto.

Ampedus (Ampedus) chlamydatus (LEWIS, 1894) ホソアカコメツキ (写真 14)

亀山市関町坂下, 1♂, 18. V. 2007, 横関秀行 leg.

本邦産のアカコメツキ類中では最も希少性の高い種の一つと見られ、山梨・東京・千葉(?)・栃木・福島・青森から知られているに過ぎない。本種については山梨県産資料に基づき本誌上でも述べたが(岸井, 2003: 8), 三重県での分布例は見えていない。的場・平松(1974: 19)は和歌山・奈良両県の県境にある護摩壇山からの記録(1♀, 3. VI. 1970, 梅本実 leg.)を報じているが筆者は資料未見である。

Ampedus (Ampedus) optabilis optabilis (LEWIS, 1894) オオアカコメツキ

鈴鹿市西庄内町野登山, 1♂, 19. II. 2006, 稲垣政志 leg.

Ampedus (Ampedus) orientalis (LEWIS, 1894) アカコメツキ

鈴鹿市西庄内町一ノ谷, 1♀, 30. IV. 2005, 生川展行 leg.; 伊勢市神宮林大床谷, 1♀, 27. V. 2002, 生川展行 leg.; 2♀♀, 15. VI. 2002, ditto; 杉谷, 1♀, 22. VI. 2002, ditto; 彦谷, 1♀, 25. V. 2003, ditto.

Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus (CANDÈZE, 1873) アカハラクロコメツキ

鈴鹿市西庄内町, 1♀, 24. V. 2004, 川添昭夫 leg.; 1♂, 9. VI. 2004, 稲垣慎吾 leg.; 同一ノ谷, 1♀, 30. IV. 2005, 生川展行 leg.; 野登山, 1♂, 1♀, 15. V. 2006, 横関秀行 leg.; 小岐須町, 2♂♂, 4. VII. 2007, 尾崎美香 leg.; 同小岸大神社, 1♀, 20. VI. 2004, ditto; 1♀, 30. VI. 2004, ditto; 小岐須溪谷, 1♂, 24. IV. 2005, 近藤恭子 leg.; 山本町, 1♂, 25. VI. 2005, 生川展行 leg.; 椿神社, 1♂, 27. IV. 2005, 村木武則 leg.; 大久保町入道ヶ岳, 1♂, 11. V. 2005, ditto; 1♀, 6. VII. 2005, ditto; 三宅町, 1♀, 18. VI. 2005, 横関秀行 leg.; 2♀♀, 24. VI. 2005, ditto; 八野町, 1♀, 29. IV. 2007, 尾崎美香 leg.; 亀山市関町筆捨山, 1♂, 1. V. 2004, 生川展行 leg.; 鈴鹿峠, 1♀, 4. V. 2006, 横関秀行 leg.; (FIT), 1♀, 6. VII. 2006, ditto; 安坂山町野登山(FIT), 1♀, 5. VI. 2004, ditto; 2♂♂, 19. VI. 2004, ditto; 伊勢市神宮林彦谷, 1♀, 8. VI. 2002, 生川展行 leg.; 1♂, 22. V. 2004, ditto; 大床谷, 1♀, 8. VI. 2003, ditto.

Ampedus (Ampedus) tamba KISHII, 1976 タンバコクロコメツキ (写真 15)

鈴鹿市西庄内町一ノ谷, 1♀, 29. V. 2004, 横関秀行 leg.; 1♀, 30. IV. 2005, 生川展行 leg.; 小岐須町小岸大神社, 1♀, 20. VI. 2004, 横関秀行 leg.; 小岐須溪谷, 1♂, 27. IV. 2005, 村木武則 leg.; 山本町椿神社, 1♂, 1♀, 27. IV. 2005, ditto; 1♀, 28. IV. 2005, ditto; 大久保町入道ヶ岳, 1♂, 6. VII. 2005, ditto; 亀山市関町金場, 2♀♀, 12. V. 2005, 横関秀行 leg.

Ampedus (Ampedus) kiso KISHII, 1990 キソコクロコメツキ (写真 16)

鈴鹿市山本町椿神社, 1♀, 27. IV. 2005, 村木武則 leg.; 大久保町入道ヶ岳, 1♂, 8. VI. 2005, ditto.

長野県木曾福島の稚児ノ沢から得られた資料(2♂♂, 1♀)で記載された種で、一般的な形態は前種によく似ているが、両性生殖器構造には両者間に極めて明瞭な形態差が認められる。特に雄交尾器側片の形状の違いは著しいが、上記の入道ヶ岳からの雄個体の交尾器先端が明瞭に体外へ露出していたので、その検鏡により本種であることを確認した。三重県からは初めてとなるが、山梨県からも2例(韮崎市円野町, 1♀, 10. IV. 1991, 細田倅市 leg.; 鳳凰山御座石鉾泉, 1♂, 30. V. 1996, ditto)の資料が見いだされた。また、兵庫県篠山の雨石山からもやや疑問点が残るが、本種に極めて類似

する雌個体を見ている (14. V. 1989, 野村英世 leg.).

Ampedus (Ampedus) japonicus japonicus SILFVERBERG, 1977 アカアシクロコメツキ

鈴鹿市西庄内町, 1♂, 5. V. 2005, 生川展行 leg.; 山本町椿神社, 1♂, 27. IV. 2005, 村木武則 leg.; 2♂♂, 28. IV. 2005, ditto; 亀山市白木町, 1♂, 22. VII. 2006, 横関秀行 leg.; 関町坂下鈴鹿峠, 1♀, 6. VI. 2007, ditto; 野登山, 1♀, 18. VI. 2005, 中西元男 leg.

Ampedus (Ampedus) takahachi KISHII, 1985 タカハチクロコメツキ (写真 17)

亀山市安坂山町, 1♂, 12. V. 2004, 川添昭夫 leg.

本県からは初めての種で, やや小型な点と小盾板構造にやや疑問点があるが, 上記資料は本種に極めて近似の種であることは明らかである. 本種は鳥取県高鉢山周辺からの3頭の資料で記載され, 広島・京都・愛知・山梨からの資料も検したが, 今回の亀山市からの資料も含めこれらの資料には, それぞれ僅かながらも地域毎に変異が認められるので更に資料数が増えた段階で検討したい.

Ampedus (Ampedus) vestitus vestitus (LEWIS, 1894) ケバカクロコメツキ (写真 18)

鈴鹿市大久保町入道ヶ岳, 1♀, 13. VII. 2005, 村木武則 leg.

本属のクロコメツキ類と称されるグループはアカコメツキ類と共に, 本邦には当初考えられていたより極めて多くの種が分化していて, 未記載と見られるものもまだ非常に多いようである.

Podeonius aquilus aquilus (CANDÈZE, 1873) クリイロニセコメツキ

鈴鹿市西庄内町野登山, 1♂, 24. VII. 2004, 生川展行 leg.; 田村町能褒野神社, 1♀, 11. VII. 2004, ditto; 三宅町(FIT), 1♂, 19. VII. 2005, 横関秀行 leg.; 岸岡町岸岡山, 3♂♂, 19. VII. 2005, ditto; 高岡町高岡山, 1♀, 10. VIII. 2006, ditto; 亀山市白木町国分寺(バケツ), 1♂, 28. VII. 2004, 横関秀行 leg.; 関町峠(バケツ), 6♂♂, 3♀♀, 9. VIII. 2006, ditto.

本種は北海道を除く本土全域と殆どの付属諸島, 南西諸島(奄美以南: 別亜種)の大部分及び台湾(別亜種)に分布し燈火飛来が多く, 済州島からの記録例もあるが資料未見で疑わしい点もある. 邦産ニセコメツキ類は CANDÈZE (1873: 8)と LEWIS (1894: 31-32) による記載以来, LE CONTE (1853: 459) の北米南部域分布の種を基本とする *Anchastus* 属の種とされていた. 筆者 (1985: 22) は少なくとも邦産種は全て別属と見なすべきとして *Anchastus mus* LEWIS, 1894を基本種として *Akitsu* 属を新設した. また DOLIN (1976: 645-647), GURJEVA (1979: 123-129) なども, ユーラシア大陸分布の種は全て *Anchastus* とは異質であるとして, *Podeonius*, *Astanchus*, *Chastanus*, *Porthmidius* の4属に分割した. 大平 (1996: 1-14) は邦産種7種, 1亜種を *Anchastus* としたが, 後にこの全てを *Podeonius* 属の種とした (大平, 2003: 19-21). これらの論拠を検討した結果, 筆者は本邦産種の所属は次のようになると考えている.

Suzukielater: 前胸背後角隆起線は一本で, 前胸腹板側縁は湾曲する. 前胸腹板突起先端は^{まぐ}剔れる. 後脚基節板後縁は僅かに広がる. *Suzukielater babai* (KISHII et OHIRA, 1956) のみ含まれるが, その所属する族には不明な点もあり, 異質性の高い種である.

Akitsu: 前胸背後角隆起線は一本で, 前胸腹板側縁は直線状. 前胸腹板突起先端は単純な鈍端. 後脚基節板後縁は顕著に広がる. *Akitsu mus* (LEWIS, 1894) が唯一の所属種である.

Chastanus: 前胸背後角隆起線は二本で, 触角第3節は前節の3倍長で4-10節は長方形. 前胸背板点刻は極めて大型で密, 明瞭に二重状で粗雑. 前胸腹板突起先端下部は多少とも^{まぐ}剔れる. *Chastanus castaneus* (MIWA, 1934) のみ含まれるが未記載種もある.

Podeonius: 前胸背後角隆起線は二本で, 触角第3節は前節の3倍長で4-10節は鋸歯状. 前胸背板点刻は小型, 疎, 二重状. 前胸腹板突起先端は単純. *Podeonius nagaoui* (OHIRA, 1968), *P. rufipes* (LEWIS, 1894), *P. aquilus* (CANDÈZE, 1873), *P. amamiensis* (OHIRA, 1996), *P. yamamotoi* (OHIRA, 1996) が含まれる.

Sadoganus babai OHIRA, 1956 ババムナピロコメツキ (写真 19)

鈴鹿市伊船町鈴鹿川, 1♂, 15. IV. 2007, 生川展行 leg.

三重県美杉村の資料が正副の模式標本として記載されたが, 以後の三重県からの記録例は無いよ

うで、今回の鈴鹿川の記録は半世紀ぶりのものと見られる。本邦固有の属で且つ唯一の種でもある。分布域は広く、北海道から九州までの河川敷に生息するが少ない。

Ectinoides insignitus insignitus (LEWIS, 1894) ヨツキボシコメツキ

鈴鹿市西庄内町一ノ谷, 1♂, 5. VI. 2004, 横関秀行 leg.; 同野登山, 1 ex., 21. V. 2006, 生川展行 leg.; 大久保町入道ヶ岳, 1♂, 30. V. 2004, ditto; 西庄内町野登山, 2♂♂, 21. IV. 2005, 稲垣政志 leg.; 亀山市関町坂下, 1♂, 22. V. 2006, 横関秀行 leg.; 1♂, 28. IV. 2007, ditto; 白木町 (FIT), 1♀, 1. VI. 2006, ditto.

Ectinus insidiosus (LEWIS, 1894) キアシクロムナボソコメツキ

鈴鹿市大久保町入道ヶ岳, 2 exs., 16. VI. 2004, 村木武則 leg.; 1 ex., 11. V. 2005, ditto; 1 ex., 6. VII. 2005, ditto; 1 ex., 13. VII. 2005, ditto; 山本町椿神社, 1 ex., 27. IV. 2005, ditto; 亀山市野登山, 1♀, 4. VI. 2005, 生川展行 leg.

Ectinus higonius (LEWIS, 1894) クロムナボソコメツキ

鈴鹿市甲斐町, 1♀, 5. VI. 2004, 村木武則 leg.; 大久保町入道ヶ岳, 2 exs., 16. VI. 2004, ditto; 1 ex., 11. V. 2005, ditto; 16 exs., 8. VI. 2005, ditto; 2 exs., 6. VII. 2005, ditto; 1 ex., 13. VII. 2005, ditto; 山本町椿神社, 1 ex., 27. IV. 2005, ditto; 亀山市野登山, 1♀, 4. VI. 2005, 生川展行 leg.; 関町坂下, 6 exs., 28. V. 2007, 横関秀行 leg.

Ectinus sericeus sericeus (CANDÈZE, 1878) カバイロコメツキ

鈴鹿市山本町, 1♀, 21. V. 2005, 生川展行 leg.; 小岐須町小岐須溪谷, 1♂, 28. IV. 2005, 稲垣政志 leg.; 大久保町入道ヶ岳, 1 ex., 6. VI. 2005, 村木武則 leg.; 亀山市白木町国分寺 (LT), 2 exs., 5. VI. 2004, 横関秀行 leg.; 新所町関ニュータウン (FIT), 1 ex., 5. V. 2005; ditto; 1 ex., 12. V. 2005, ditto; 関町坂下鈴鹿峠, 1♀, 22. V. 2006, ditto.

Nipponoelater kometsuki (KISHII, 1985) ヒメオオナガコメツキ (写真 20)

亀山市野登山 (LT), 1♂, 5. VIII. 2006, 横関秀行 leg.; 北牟婁郡紀伊長町島豊浦神社, 1♂, 23. VII. 1994, 生川展行 leg.

これまでに新潟・茨城・千葉・東京・神奈川・長野・岐阜・愛知・京都・奈良・岡山・鳥取・広島・徳島・香川から報告され、分布域は広いが三重県からの記録は初めてのようである。次種に生態と生息環境共によく似た種であるが、平均的には小型で光沢は強く、前胸背板点刻はより疎、前胸腹板突起後方面の段刻は突起中央より後方で短小、触角第3節以降の側葉先端の発達は弱く、上翅末端部は鈍端状で突出しない。

Nipponoelater sieboldi sieboldi (CANDÈZE, 1873) オオナガコメツキ

鈴鹿市西庄内町野登山 (LT), 1♂, 24. VII. 2004, 生川展行 leg.; 野登山, 1♂, 27. VII. 2006, ditto; 1♂, 5. VIII. 2006, ditto; 小岐須町小岸大神社, 1♂, 20. VII. 2004, 横関秀行 leg.; 1♂, 19. VIII. 2004, ditto.

Mulsanteus junior junior (CANDÈZE, 1873) ヒゲナガコメツキ

鈴鹿市西庄内町, 2♂♂, 24. V. 2004, 川添昭夫 leg.; 小岐須町小岸大神社, 1♀, 14. VI. 2004, 横関秀行 leg.; 長沢町長瀬神社, 3♂♂, 1♀, 27. V. 2004, 稲垣政志 leg.; 3♂♂, 2♀♀, 22. V. 2005, 小島弘昭 leg.; 岸岡町岸岡山 (バケツ), 1♂, 12. V. 2005, 横関秀行 leg.; 1♀, 29. V. 2005, 米川弥寿代 leg.; 1♂, 24. VI. 2005, 生川展行 leg.; 1♂, 1♀, 24. VI. 2005, 横関秀行 leg.; (FIT), 1♀, 18. VI. 2005, ditto; 三宅町 (FIT), 18♂♂, 31. V. 2005, ditto; 1♀, 20. VII. 2006, ditto; 高岡町高岡城跡公園, 1♂, 1♀, 28. VI. 2006, ditto; 寺屋町鼓ヶ浦海岸, 1♂, 22. V. 2006, 生川展行 leg.; 亀山市川崎町, 3♂♂, 14. V. 2006, 生川展行 leg.; 白木町国分寺 (LT), 1♂, 5. VI. 2004, 横関秀行 leg.

Vuilletus viridis (LEWIS, 1894) ミドリヒメコメツキ

鈴鹿市山本町椿神社, 4♂♂, 2♀♀, 27. IV. 2005, 村木武則 leg.; 1♂, 1♀, 28. IV. 2005, ditto; 小岐須町宮指路岳, 3♂♂, 1♀, 28. VI. 2006, ditto.

Vuilletus peropacus (NAKANE, 1959) ツヤケシミドリヒメコメツキ

鈴鹿市山本町椿神社, 1♀, 28. IV. 2005, 村木武則 leg.; 大久保町入道ヶ岳, 25♀♀, 11. V. 2005, ditto; 3♂♂, 13♀♀, 8. VI. 2005, ditto; 2♀♀, 6. VII. 2005, ditto; 小岐須町小岐須溪谷, 1♀, 11. V. 2005, ditto; 亀山市野登山, 1♀, 18. VI. 2005, 中西元男 leg.

Dolerosomus gracilis (CANDÈZE, 1873) キバネホソコメツキ

鈴鹿市徳居町酒井神社, 1♂, 30. IV. 2005, 大杉淳 leg.; 西庄内町一ノ谷, 2♂♂, 1♀, 30. IV. 2005, 生川展行 leg.; 岸岡町岸岡山 (バケツ), 1♂, 5. V. 2005, 横関秀行 leg.; (FIT), 2♂♂, 31. V. 2005, ditto; 三宅町, 1♀, 24. VI. 2005, ditto; 同(バケツ), 1♀, 18. VI. 2005, ditto; 小岐須町小岐須溪谷, 1♂, 1♀, 27. IV. 2005, 村木武則 leg.; 3♀♀, 11. V. 2005, ditto; 10♂♂, 28. IV. 2005, 稲垣政志 leg.; 滝ヶ谷, 1♀, 15. V. 2005, 生川展行 leg.; 大久保町入道ヶ岳, 1♀, 11. V. 2005, 村木武則 leg.; 4♂♂, 6♀♀, 8. VI. 2005, ditto; 2♀♀, 29. VI. 2005, ditto; 1♀, 6. VII. 2005, ditto; 亀山市両尾町, 2♂♂, 18. IV. 2004, 川添昭夫 leg.; 野登山 (FIT), 1♂, 17-24. IV. 2004, 池田正清 leg.; 関町坂下鈴鹿峠, 1♀, 1. III. 2007, 稲垣政志 leg.; 1♂, 22. V. 2006, 横関秀行 leg.; 白木町, 1♀, 19. VI. 2006, ditto; 関ヶ丘破魔射場池, 1♂, 1♀, 21. VI. 2006, ditto; 三寺町石神社 (バケツ), 1♂, 5. V. 2005, ditto; (叩網), 1♂, 5. V. 2005, ditto; (FIT), 1♀, 12. V. 2005, ditto; 加太不動滝 (LT), 1♂, 5. V. 2005, ditto; 北在家 (バケツ), 3♂♂, 6♀♀, 5. V. 2005, ditto; 新所町関ニュータウン (バケツ), 3♂♂, 1♀, 5. V. 2005, ditto; 関町坂下, 2♂♂, 28. V. 2007, ditto; 安坂山町石水溪 (FIT), 1♀, 10. VIII. 2007, ditto; 大森町, 1♀, 15. V. 2005, 生川展行 leg.

Lanecarus palustris (LEWIS, 1894) ニセクチプトコメツキ

鈴鹿市西庄内町, 3♂♂, 1♀, 10. VI. 2006, 生川展行 leg.; 寺屋町鼓ヶ浦海岸, 2 exs., 22. V. 2006, ditto; 弓削町, 1♂, 12. V. 2007, 尾崎美香 leg.

Silesis musculus musculus CANDÈZE, 1873 クチプトコメツキ

鈴鹿市伊船町竜ヶ池 (FIT), 3 exs., 19. VI. 2005, 横関秀行 leg.; 庄野町鈴鹿川, 15 exs., 23. VI. 2005, 生川展行 leg.; 大久保町奥ノ谷, 1 ex., 7. VII. 2005, ditto; 1♀, 30. VII. 2006, ditto; 入道ヶ岳, 6 exs., 6. VII. 2005, 村木武則 leg.; 宮妻林道, 2 exs., 7. VII. 2005, 生川展行 leg.; 小岐須町, 1♀, 10. IX. 2005, 村木武則 leg.; 甲斐町鈴鹿川, 1 ex., 17. VI. 2006, 生川展行 leg.; 亀山市野登山 (LT), 2♂♂, 1♀, 5. VIII. 2006, 横関秀行 leg.; 関ヶ丘破魔射場池, 1 ex., 21. VI. 2006, ditto; 伊勢市神宮林大床谷, 2♀♀, 7. VII. 2002, 生川展行 leg.; 1♀, 8. VI. 2003, ditto.

Glyphonyx illepidus CANDÈZE, 1873 クチボソコメツキ

鈴鹿市西庄内町野登山, 2♂♂, 30. VI. 2004, 村木武則 leg.; 亀山市野登山 (LT), 15 exs., 5. VIII. 2006, 横関秀行 leg.

Glyphonyx bicolor bicolor CANDÈZE, 1893 キバネクチボソコメツキ

鈴鹿市西庄内町野登山, 1♀, 24. VII. 2004, 生川展行 leg.; 1♀, 16. VIII. 2006, 村木武則 leg.; 亀山市野登山 (LT), 2 exs., 5. VIII. 2006, 横関秀行 leg.; 伊勢市神宮林大床谷, 1♂, 7. VII. 2002, 生川展行 leg.; 1♂, 8. VIII. 2002, ditto; 内宮, 1♂, 23. VIII. 2003, ditto; 北牟婁郡紀伊長島町豊浦神社, 1♂, 23. VII. 1994, 生川展行 leg.

Glyphonyx dalopioides NAKANE, 1958 クロスジクチボソコメツキ

鈴鹿市伊船町竜ヶ池 (LT), 1 ex., 19. VI. 2005, 横関秀行 ditto; 庄野町鈴鹿川, 14 exs., 23. VI. 2005, 生川展行 leg.; 田村町能褒野神社, 1♀, 11. VII. 2004, ditto; 1♀, 22. VII. 2004, ditto; 甲斐町鈴鹿川, 1 ex., 17. VI. 2006, ditto.

Melanotus annosus CANDÈZE, 1865 クロツヤクシコメツキ

鈴鹿市山本町, 1♀, 18. VI. 2005, 稲垣慎吾 leg.

Melanotus senilis senilis CANDÈZE, 1865 クロクシコメツキ

鈴鹿市西庄内町, 1♀, 9. VI. 2004, 稲垣慎吾 leg.; 1♂, 21. V. 2006, 生川展行 leg.; 一ノ谷, 1♀, 29. V. 2004, 横関秀行 leg.; 1♀, 5. VI. 2004, ditto; 同鈴鹿川, 1♀, 10. VI. 2006, 生川展行 leg.; 木田町鈴鹿川, 5♂♂, 15. V. 2004, 生川展行 leg.; 庄野町鈴鹿川, 1♀, 3. VI. 2004, 稲垣政志 leg.; 1♂,

21. V. 2005, 生川展行 leg.; 長沢町, 2♂♂, 24. V. 2004, 川添昭夫 leg.; 大久保町入道ヶ岳, 1♀, 30. V. 2004, 生川展行 leg.; 甲斐町, 2♂♂, 5. VI. 2004, 村木武則 leg.; 3♂♂, 8. V. 2007, 尾崎美香 leg.; 3♂♂, 4♀♀, 21. V. 2007, ditto; 同鈴鹿川, 1♂, 6. V. 2006, 生川展行 leg.; 中富田町, 9♂♂, 1♀, 12. V. 2007, 尾崎美香 leg.; 小岐須町, 3♂♂, 12. V. 2007, 尾崎柚香 leg.

Melanotus correctus CANDÈZE, 1865 ヒラタクロクシコメツキ

鈴鹿市西庄内町一ノ谷, 8♂♂, 1♀, 22. V. 2004, 横関秀行 leg.; 1♂, 29. V. 2004, ditto; 1♂, 14. VI. 2004, ditto; 野登山, 1♂, 12. VI. 2004, ditto; 小岐須町小岸大神社, 1♂, 29. V. 2004, ditto; 宮指路岳, 2♂♂, 14. VI. 2006, 村木武則 leg.; 2♂♂, 21. VI. 2006, ditto; 滝ヶ谷, 1♂, 15. V. 2005, 生川展行 leg.; 山本町, 2♂♂, 21. V. 2005, ditto; 亀山市野登山, 5♂♂, 4. VI. 2005, 生川展行 leg.; 関町筆捨山, 1♂, 1. V. 2004, 生川展行 leg.

Melanotus legatoides KISHII, 1975 ヒメクシコメツキ

鈴鹿市西庄内町, 1♂, 9. VI. 2004, 稲垣慎吾 leg.; 同野登山, 2♀♀, 27. VII. 2006, 生川展行 leg.; 3♂♂, 21. V. 2006, ditto; 庄野町, 1♀, 9. VI. 2005, 稲垣慎吾 leg.; 三宅町 (LT), 4♂♂, 15. V. 2006, 横関秀行 leg.; 山本町椿大神社, 1♂, 26. IX. 2005, ditto; 大池, 1♀, 4. VI. 2006, 村木武則 leg.; 高岡町高岡城跡公園, 1♀, 28. VI. 2006, 横関秀行 leg.; 亀山市鈴鹿峠 (FIT), 1♂, 6. VII. 2006, 横関秀行 leg.

Melanotus legatus legatus CANDÈZE, 1860 クシコメツキ

鈴鹿市西庄内町一ノ谷, 4♂♂, 5. VI. 2004, 横関秀行 leg.; 2♂♂, 14. VI. 2004, ditto; 1♀, 6. VII. 2004, ditto; 野登山 (LT), 1♂, 24. VII. 2004, 生川展行 leg.; 小岐須町小岸大神社, 1♂, 14. VII. 2004, 横関秀行 leg.; 小岐須溪谷, 1♂, 12. VI. 2005, 生川展行 leg.; 住吉町青少年の森, 1♂, 18. V. 2004, 村木武則 leg.; 山本町, 1♂, 1. VI. 2004, 生川展行 leg.; 椿大神宮, 1♂, 29. V. 2004, 生川展行 leg.; 2♂♂, 29. V. 2004, 中西元男 leg.; 1♂, 29. V. 2004, 稲垣政志 leg.; 3♂♂, 29. V. 2004, 横関秀行 leg.; 長沢町長瀬神社, 1♀, 27. V. 2004, 稲垣政志 leg.; 5♂♂, 9. VI. 2004, 横関秀行 leg.; 1♂, 2♀♀, 17. VI. 2004, 生川展行 leg.; 3♂♂, 22. V. 2005, 小島弘昭 leg.; 加佐登町加佐登神社, 1♀, 26. VI. 2004, ditto; 岸岡町岸岡山; 1♀, 24. VI. 2005, 横関秀行 leg.; 同 (FIT), 1♂, 18. VI. 2005, ditto; 伊船町御幣川, 1♂, 7. VII. 2007, 生川展行 leg.; 同竜ヶ池 (LT), 1♂, 19. VI. 2005, ditto; 庄野町鈴鹿川, 1♂, 23. VI. 2005, 生川展行 leg.; 寺家町鼓ヶ浦海岸, 1♂, 8. VII. 2005, 武田彩 leg.; 津賀町, 1♂, 12. VI. 2005, 村木武則 leg.; 山本町, 1♂, 18. VI. 2005, 稲垣政志 leg.; 弓削町, 1♂, 12. V. 2007, 尾崎美香 leg.; 亀山市関町坂下, 1♂, 19. VI. 2006, 横関秀行 leg.; 鈴鹿峠 (FIT), 4♂♂, 6. VII. 2006, 横関秀行 leg.; 関ヶ丘破魔射場池, 4♂♂, 21. VI. 2006, ditto; 伊勢市神宮林彦谷, 1♀, 29. V. 2003, 生川展行 leg.; 1♂, 15. VI. 2002, ditto.

Melanotus lewisi lewisi SCHENKLING, 1927 ルイスクシコメツキ

鈴鹿市岸岡町岸岡山, 1♀, 1. VI. 2004, 生川展行 leg.; 6♂♂, 17. VI. 2004, ditto; 1♂, 24. VI. 2005, ditto; 山本町椿大神社, 1♂, 29. V. 2004, ditto; 伊船町竜ヶ池 (LT), 2♂♂, 2♀♀, 19. VI. 2005, 横関秀行 leg.; 三宅町, 1♀, 5. VII. 2005, ditto; 亀山市関町坂下, 1♀, 6. VII. 2006, 横関秀行 leg.; 伊勢市神宮林内宮, 2♂♂, 23. VIII. 2003, 生川展行 leg.

Melanotus sprenendus sprenendus CANDÈZE, 1873 ナガチャクシコメツキ (写真 21)

鈴鹿市山本町椿大神宮, 1♂, 29. V. 2004, 横関秀行 leg.; 西庄内町一ノ谷, 1♂, 30. IV. 2005, 生川展行 leg.

北海道から九州までの本土4島と多くの付属諸島から知られるが、あまり多いものではなく屋久島産は別亜種とされる。

Melanotus seniculus CANDÈZE, 1873 チャバネクシコメツキ

鈴鹿市汲川原町, 1♂, 22. IV. 2007, 尾崎美香 leg.

三重県からは中谷 (1970: 7) や大平・市橋 (1975: 98) らによって、一志町や津市から記録されているが、最近の報告例は見えない。

Melanotus erythropugus erythropugus CANDÈZE, 1873 コガタクシコメツキ

鈴鹿市西庄内町野登山, 1♂, 29. V. 2004, 横関秀行 leg.; 1♂, 5. VI. 2004, ditto; 1♂, 12. VI. 2004, ditto; 1♂, 20. VI. 2004, ditto; 一ノ谷, 1♂, 29. V. 2004, ditto; 1♂, 30. VI. 2004, ditto; 1♀, 6. VII. 2004, ditto; 山本町椿大神社, 1♀, 29. V. 2004, 生川展行 leg.; 1♂, 14. V. 2006, 中西元男 leg.; 亀山市川崎町, 2♂♂, 1♀, 14. V. 2006, 生川展行 leg.

Melanotus fortunei fortunei CANDÈZE, 1878 マルクビクシコメツキ (写真 22)

鈴鹿市西庄内町一ノ谷, 1♀, 14. VI. 2004, 横関秀行 leg.; 寺家町鼓ヶ浦海岸, 1♀, 22. V. 2006, 生川展行 leg.

分布域は広く幼虫が作物根茎を食害する著名なコメツキとされるが, 一般的にはあまり多い種とは言えず, 北海道産個体群は別亜種とされる. 前種に似るが第2・3触角節がほぼ等長で亜球形に近く, 雄の第4-10節は明瞭な鋸歯状なので分かり易い.

Spheniscosomus koikei (KISHII et OHIRA, 1956) ヒラタクシコメツキ

鈴鹿市小岐須町小岐須溪谷, 1♂, 27. IV. 2005, 村木武則 leg.; 長沢町長瀬神社, 8♂♂, 3♀♀, 22. V. 2005, 小島弘昭 leg.; 亀山市安坂山町, 1♀, 12. V. 2004, 川添昭夫 leg.; 白木町, 1♂, 19. VI. 2006, 横関秀行 leg.; 1♂, 1♀, 22. VII. 2006, 横関秀行 leg.; 川崎町, 1♀, 14. V. 2006, 生川展行 leg.

Spheniscosomus cete cete (CANDÈZE, 1860) アカアシオオクシコメツキ

鈴鹿市西庄内町, 6♀♀, 9. VI. 2004, 稲垣慎吾 leg.; 1♀, 5. V. 2005, 生川展行 leg.; 同野登山, 1♀, 5. VIII. 2006, ditto; 東庄内町庄内神社, 1♂, 26. VI. 2004, ditto; 木田町鈴鹿川, 1♂, 15. V. 2004, ditto; 小岐須町小岸大神社, 1♂, 30. VI. 2004, 横関秀行 leg.; 大久保町, 1♀, 5. VIII. 2005, 村木武則 leg.; 同入道ヶ岳, 1♂, 30. V. 2004, 山口照美 leg.; 稲生西二丁目伊奈富神社, 1♂, 12. V. 2004, 村木武則 leg.; 甲斐町, 1♂, 5. VI. 2004, ditto; 1♂, 8. V. 2007, 尾崎美香 leg.; 山本町椿神社, 1♂, 28. IV. 2005, ditto; 加佐登町加佐登神社, 1♀, 5. V. 2004, 生川展行 leg.; 岸岡町岸岡山, 1♂, 29. V. 2004, 中西元男 leg.; 国分町菅原神社, 2♂♂, 8. V. 2005, 生川展行 leg.; 三宅町, 1♂, 1♀, 14. V. 2005, ditto; 1♀, 7. VI. 2005, 横関秀行 leg.; 八野町, 1♂, 8. VI. 2005, ditto; 亀山市野登山, 1♂, 4. VI. 2005, 生川展行 leg.; 関ヶ丘破魔射場池, 2♂♂, 2♀♀, 21. VI. 2006, 横関秀行 leg.

Spheniscosomus japonicus (OHIRA, 1974) ハネナガオオクシコメツキ

鈴鹿市西庄内町野登山, 1♂, 19. VI. 2004, 生川展行 leg.; 2♂♂, 30. VI. 2004, 村木武則 leg.; 1♂, 24. VII. 2004, 生川展行 leg.; 大久保町入道ヶ岳, 1♂, 30. V. 2004, 山口照美 leg.; 1♂, 1♀, 16. VI. 2004, 村木武則 leg.

Oedostethus telluris (LEWIS, 1879) クロツヤミズギワコメツキ

鈴鹿市庄野町鈴鹿川, 1♂, 21. V. 2005, 生川展行 leg.; 1♀, 23. VI. 2005, ditto; 4 exs., 9. VII. 2006, ditto; 甲斐町鈴鹿川, 1♂, 1♀, 17. VI. 2006, ditto; 西庄内町鈴鹿川, 6 exs., 10. VI. 2006, ditto.

Fleutiauxellus (Neomigiwa) quadrillum (CANDÈZE, 1873) ヨツモンミズギワコメツキ

鈴鹿市伊船町, 6 exs., 29. V. 2005, 稲垣政志 leg.; 庄野町, 10 exs., 9. VI. 2005, ditto; 同鈴鹿川, 1♀, 9. VII. 2006, 岡田直也 leg.; 西庄内町鈴鹿川, 5 exs., 10. VI. 2006, 生川展行 leg.; 弓削町鈴鹿川, 1♂, 10. V. 2007, 尾崎美香 leg.

Fleutiauxellus (Migiwa) tutus (LEWIS, 1894) キアシミズギワコメツキ

鈴鹿市小岐須町小岸大神社, 1♀, 30. VI. 2004, 横関秀行 leg.

Fleutiauxellus (Migiwa) insulsus (CANDÈZE, 1873) クロミズギワコメツキ

鈴鹿市小岐須町小岐須溪谷, 2♀♀, 4. VI. 2006, 生川展行 leg.

Fleutiauxellus (Migiwa) curatus curatus (CANDÈZE, 1873) ミズギワコメツキ

鈴鹿市西庄内町鈴鹿川, 1♀, 10. VI. 2006, 生川展行 leg.; 山本町入道ヶ岳, 3 exs., 3. VI. 2006, ditto; 小岐須町, 1♂, 1♀, 9. VI. 2004, 村木武則 leg.; 小岐須溪谷, 6♂♂, 19. VII. 2004, 生川展行 leg.; 1♂, 12. VI. 2005, ditto; 同御幣川, 13 exs., 12. V. 2007, ditto; 庄野町鈴鹿川, 1♂, 7. VIII. 2005, ditto; 大久保町奥ノ谷, 1 ex., 7. VII. 2005, 横関秀行 leg.; 伊船町御幣川, 4 exs., 7. VII. 2007, 生川展行 leg.; (LT), 2 exs., 19. VIII. 2007, 横関秀行 leg.

Fleutiauxellus (Migiwa) yotsuboshi (KISHII, 1976) ヨツボシミズギワコメツキ

鈴鹿市庄野町鈴鹿川, 1♀, 9. VII. 2006, 生川展 leg.; 西庄内町鈴鹿川, 5 exs., 10. VI. 2006, ditto.

ミズギワコメツキやチビコメツキ類には上翅に4黄赤色斑紋をもつ種が多い。特に本種の場合は次種によく似ているが、次種では上翅基部の斑紋が大きく幅広で小盾板との間隔が極めて狭く相接しているが、本種では肩部から縦長の斑紋になり、小盾板とは2-3間室程離れている。また前記の *Neomigiwa* 亜属に入るヨツモンミズギワコメツキにも似ているが、前胸背板上の顆粒状点刻が背板の前部を含め全面に密布するのが本種と次種で、背板前部では一般の点刻状で顆粒状のものは認められず、側縁と後半部でのみ多少顆粒状となるのがヨツモンミズギワコメツキである。

Fleutiauxellus (Migiwa) cruciatus (CANDÈZE, 1873) ジュウジミズギワコメツキ

鈴鹿市庄野町鈴鹿川, 1♀, 7. VIII. 2005, 伊藤元幸 leg.; 1♀, 7. VIII. 2005, 生川展 leg.

Zorochros (Pronegastrus) humeralis humeralis (CANDÈZE, 1873) カタモンチビコメツキ

鈴鹿市小岐須町小岐須溪谷, 1♀, 24. IV. 2005, 生川展 leg.; 亀山市石水溪, 1 ex., 11. VIII. 2007, 生川展 leg.

Zorochros (Yamatostrius) albipilis (CANDÈZE, 1873) シラケチビミズギワコメツキ

鈴鹿市西庄内町鈴鹿川, 1♀, 10. VI. 2006, 生川展 leg.

Quasimus japonicus KISHII, 1959 ニホンチビマメコメツキ

鈴鹿市小岐須町, 1 ex., 9. VI. 2004, 村木武則 leg.; 大久保町入道ヶ岳, 1♂, 30. VII. 2006, 生川展 leg.

Yukoana carinicolis (LEWIS, 1894) ヘリムネマメコメツキ

鈴鹿市小岐須町小岐須溪谷, 1♂, 28. IV. 2005, 稲垣政志 leg.; 宮妻林道, 1♀, 7. VII. 2005, 生川展 leg.; 亀山市両尾町, 1♀, 3. V. 2006, 横関秀行 leg.; 白木町, 1♀, 11. V. 2006, ditto.

Yukoana elliptica (CANDÈZE, 1873) ヘリマメコメツキ

鈴鹿市西庄内町野登山, 1♀, 24. V. 2004, 横関秀行 leg.; 1♀, 15. V. 2006, ditto; 2♀♀, 21. V. 2006, 生川展 leg.; 小岐須町, 1♀, 26. IV. 2004, 川添昭夫 leg.; 山本町椿大神社, 1♀, 29. V. 2004, 生川展 leg.; 入道ヶ岳, 2♂♂, 4. V. 2006, ditto.

Dicronychus nothus (CANDÈZE, 1865) オオハナコメツキ

鈴鹿市甲斐町鈴鹿川, 2♂♂, 1♀, 6. V. 2006, 生川展 leg.; 富田町安楽川, 1♂, 12. V. 2007, ditto; 八野町, 1♀, 29. IV. 2007, 尾崎美香 leg.; 弓削町, 1♀, 7. V. 2007, ditto; 中富田町, 1♂, 12. V. 2007, ditto; 伊勢市神宮林彦谷, 1♂, 29. V. 2003, 生川展 leg.

Displatynychus adjutor (CANDÈZE, 1873) アカアシハナコメツキ

鈴鹿市木田町, 1♀, 20. VI. 2005, 生川展 leg.; 高岡町高岡山, 1♀, 10. VIII. 2006, 横関秀行 leg.; 亀山市白木町, 1♂, 22. VII. 2006, 横関秀行 leg.

Cardiophorus pinguis LEWIS, 1894 クロハナコメツキ

鈴鹿市西庄内町椿大神社, 1 ex., 4. VI. 2006, 中西元男 leg.

Cardiophorus niponicus LEWIS, 1894 ホソハナコメツキ

亀山市白木町, 1♂, 19. VI. 2006, 横関秀行 leg.; 2♀♀, 22. VII. 2006, ditto; 1 ex., 1. VIII. 2006, ditto; 関町鈴鹿峠 (FIT), 1♀, 29. VI. 2007, ditto; 関町坂下, 1♂, 29. VI. 2007, ditto; 大久保町入道ヶ岳, 1♀, 29. VI. 2005, 村木武則 leg.

Paracardiophorus pullatus pullatus (CANDÈZE, 1873) コハナコメツキ

鈴鹿市西庄内町, 1♀, 24. VI. 2004, 川添昭夫 leg.; 弓削町鈴鹿川, 1 ex., 22. IV. 2006, 生川展 leg.

Paracardiophorus opacus (LEWIS, 1894) クロコハナコメツキ

鈴鹿市伊船町, 5♂♂, 1♀, 29. V. 2005, 稲垣政志 leg.; 亀山市阿野田町鈴鹿川, 7 exs., 8. III. 2006, 横関秀行 leg.

<参考文献>

- CANDÈZE E. C. A., 1873. Insects recueillis au Japon par Mr. G. LEWIS, Elaterides. Memoires de la Societe royale des Sciences de Liege, (2)5, memoire., 2: 1-32.
- DOLIN, V. G. & E. L. GURJEVA, 1976. New genus of Elaterid-beetles from Talissa. Dokl. AN. USSR, ser. B, 7: 645-647 (In Russian).
- GURJEVA, E. L., 1979. Fauna of USSR. Nauka, Leningrad, 12(4): 1-452.
- KIM, C. -W., 1978. Distribution Atlas of Insects of Korea. Ser. II. Coleoptera. Korea University Press, Seoul, Korea: 1-414.
- KISHII, T. 1964. Elateridae of Islands Awa-shima, Hegura-jima and Nanatsu-jima. The Snappers of Islands (IV). Bulletin of the Heian High School, Kyoto, 8: 1-38.
- KISHII, 1985. Some new forms of Elateridae in Japan (XVII). Bulletin of the Heian High School, Kyoto, 29: 1-30.
- 岸井 尚, 1985. 日本とその周辺地域に分布するコメツキムシについての知見 (4). 月刊むし(GEKKAN-MUSHI), Tokyo, 175: 8-10.
- 岸井 尚, 2003. マレーゼトラップによる大澤正嗣氏蒐集の秩父山塊産コメツキムシ. NEJIREBANE, 105: 1-15.
- 岸井 尚, 2004. 田中馨氏蒐集の山口県のコメツキムシ (On the Elaterid-beetles from Yamaguchi Prefecture, collected by Mr. Kaoru TANAKA, with the descriptions of six new taxa). Bulletin of the Yamaguchi Museum, 30: 105-143.
- LAIBNER, S., 2000. Elateridae of the Czech and Slovak Republics Ceske a Slovenske republiky. Kabourek, Zlin: 1-292.
- LE CONTE, J. L., 1853. Revision of the Elateridae of the United States. Transactions of the American Philosophical Society, [2]10: 405-508.
- LEE Y.-I. et al., 1985. Insect Fauna of Mt. Halla. Report of the Academic Survey of Hallasan(Mountain) Natural Preserve, Chejudo, Korea: 351-455.
- LEWIS, G., 1894. On the Elateridae of Japan. The Annals and Magazine of Natural History including Zoology, Botany, and Geology, London, [6]13: 25-48.
- 的場績・平松広吉, 1974. 和歌山県コメツキムシ科目録 II. 南紀生物, Nanki Biological Society, 16(1): 18-22.
- 三輪勇四朗, 1933. 九州帝国大学農学部昆虫学教室所蔵の叩頭蟲標本 (Elateridae in the Collection of the Entomological Laboratory, Kyushu Imperial University, II), むし, 福岡, 6(2): 66-73.
- 中谷和夫, 1970. 三重県のコメツキムシ科採集報告. Volvox, 12: 3-7.
- 大平仁夫, 1996. 日本産アシプトコメツキ類について. Notes on the *Anchastus*-species from Japan (Elateridae, Elaterinae, Physorhinini). 越佐昆虫同好会, (76): 1-14.
- 大平仁夫, 2003. 日本産アシプトコメツキ類の属名について. Notes on the generic position of *Anchastus*-species from Japan). Coleoptera: Elateridae, Physorhinini). Coleopterists' News, Tokyo, 142: 19-21.
- 大平仁夫・市橋甫, 1975. 三重県のコメツキムシ 2. 市橋甫採集のコメツキムシ科標本. ひらくら, 19 (6), 215: 87-101.
- PAIK, J.-C. et al., 1995. Insects of Quelpart Island. Chejudo Folklore and Natural History Museum, Korea: 1-614. (In Korean)
- PLATIA, G. et CATE, P., 1990. Note sistematiche e sinonimiche su Elateridi paleartici (Coleoptera, Elateridae). Bollettino della Societ Entomologica Italiana, Genova, 122(2):11-114
- SANCHEZ-RUIZ, A., 1996. Catalogo bibliografico de las especies de la familia Elateridae (Coleoptera) de la peninsula Iberia e islas Baleares. Documentos Fauna Iberica 2. Museo Nacional de Ciencias Naturales, CSIC, Madrid:1- 265.
- TARNAWSKI, D., 1996. A world catalogue of Ctenicerini Fleutiaux, 1936 (Coleoptera: Elateridae: Athoinae). Genus (International Journal of Invertebrate Taxonomy). Polish Taxonomical Society, Wroc3aw, 7(4): 587-663.

オキナワダエンテントウダマシの本州からの採集記録
Records of *Mychothenus hirashimai* SASAJI (Endomychidae) from Honshu
By Nobuyuki NARUKAWA

生川 展行

〒513-0015 三重県鈴鹿市木田町 2399

Mychothenus hirashimai SASAJI オキナワダエンテントウダマシは, SASAJI (1990) により沖縄県那覇市で得られた標本に基づき記載された種で, その後の採集記録は見当たらないようである. 今回筆者は, 岐阜県で採集された本種の標本を検査することができたので, 報告しておく. なお, 貴重



オキナワダエンテントウダマシ

な標本を検査する機会を与えていただいた豊島健太郎氏、標本写真を撮影していただいた稲垣政志氏に、心よりお礼申し上げます。

3♂4♀, 岐阜県岐阜市金華山, 11. V. 2008, 豊島健太郎採集, 筆者保管; 8♂11♀, 岐阜県岐阜市金華山, 18. V. 2008, 豊島健太郎採集, 保管。

枯れたタケの葉のビーティングにより採集された。なお、*Mychothenus asiaticus* SASAJI ダエンテントウダマシとは、上翅の毛が長く、♂の上翅端の窪みが大きく深い点で区別できる。

<文献>

SASAJI, H., 1990. The family Mychothenidae of Japan (Coleoptera). Esakia, special Issue, (1): 65-75.

日本新記録のテントウムシダマシ The new record of Endomychid-beetle from Japan

By Nobuyuki NARUKAWA

生川 展行

〒513-0015 三重県鈴鹿市木田町 2399

筆者は、近年沖縄本島で採集された *Stenotarsus* 属の標本を検査する機会を得た。日本からは、6種の *Stenotarsus* 属のテントウムシダマシが記録されているが、筆者の所蔵している標本や、*Stenotarsus nakanoshimensis* NAKANE トカラムクゲテントウダマシや、*S. kurosai* NAKANE コゲチャムクゲテントウダマシのタイプ標本と比較して調べた結果、この標本は日本からは該当する種がなく、台湾から記載された *S. aokii* CHŪJŌ であると確定したので報告しておく。なお、今回検した標本は、前胸背と上翅の黒褐色紋に変異があり、ほとんど紋のない個体から、前胸背と上翅の中央部に大きな黒褐色紋がある個体まで見られた。原稿を草するにあたり、貴重な標本を検査する機会を与えていただいた草野憲二氏と田中 勇氏、トカラムクゲテントウダマシとコゲチャムクゲテントウダマシのタイプ標本の借与に、ご配慮いただいた大原昌宏氏及び、標本写真を撮影していただいた稲垣政志氏に、心よりお礼申し上げます。

*Stenotarsus aokii* CHŪJŌ

1 ex., 沖縄県沖縄本島那覇市末吉公園, 1. IV. 1999, 草野憲二採集; 6 exs., 沖縄県沖縄本島浦添市当山浦添大公園, 29. VI. 2002, 草野憲二採集; 1 ex., 沖縄県沖縄本島南城市斎場御嶽, 9. V. 2008, 田中 勇採集。

<文献>

CHŪJŌ, M., 1942. Description of a new Endomychid-beetle from Formosa. Mushi, 14: 79-80.

書籍紹介

「虫捕る子だけが生き残る」

養老孟司・池田清彦・奥本大三郎共著 小学館 2008年12月発売 735円(税込)

これは真実だと確信をもって言えることが一つある。それは、幼いころから虫捕りをして、たくさん虫を殺して育った子は、「だれでもいいから人を殺してみたくなくなった」などという人間には決してならない、ということである。これは「平気で虫を殺すような子は、大きくなったら人殺しをやる」という平凡な考えと正反対であるし、「命あるものをやたらに殺してはいけない」という今の風潮に反するから、なかなか理解してもらえない。しかし、そのヒステリックな生命尊重教育こそが、子供を自然から引き離し、自然嫌い、人間嫌いの子を生み、人間性の形成過程において欠陥のある人間を作ってしまう、社会問題にまで発展していることに、世の多くの人気が付いていない。

そのような人たちに、是非読んでもらいたいのが本書である。著者は解剖学者であり「バカの壁」などのベストセラーで有名な養老孟司、生物学者で「環境問題のウソ」などでユニークな発言がとどまらない池田清彦、仏文学者で「完訳ファーブル昆虫記」などで知られ、日本昆虫協会会長の奥本大三郎。この親しい友人同士三人の座談の形式をとる。三人とも、いい大人になっても恥ずかし気もなく捕虫網を振りまわし、虫捕りに熱中している(世間から見れば)変わった人たちであるが、ただの虫屋ではない。虫捕りの楽しさから始まって、虫捕りにはいかに頭と体を使って工夫をこらさねばならないか、そのことがどんなに子供の心身の成長発達に必要であるか、虫を捕るからではなく環境破壊のほうがはるかに多くの虫の住処を奪い、自然を変貌させてしまうか、さらに教育・政治・経済の問題にまで博識を持った三人が言いたい放題。よく聞けば深い含蓄のある話ばかり。

本当は、日本甲虫学会の会員諸氏よりも、虫のことを知らない一般人に読んでもらいたい本であるが、まずは虫好きの人たちが購入し、「そうだ、そうだ!」と膝を叩いて読み終わったら、一般人に強制的に押し付けて読ませてほしいものである。

(横浜国立大学名誉教授 青木淳一)

ねじればね 124号 Nejirebane No. 124

2009年9月15日発行 15. September 2009

発行者：日本甲虫学会(会長 大林延夫) The Japan Coleopterological Society

発行所：日本甲虫学会 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪市立自然史博物館・昆虫研究室気付

Entomological Laboratory, Osaka Museum of Natural History, Osaka, 546-0034, JAPAN

振替口座: 00990-8-39672 URL: <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jcs.html>

Tel: 06-6697-6221 Fax: 06-6697-6225 E-mail: shiyake@mus-nh.city.osaka.jp

編集：保科英人、伊藤建夫、谷角素彦

ねじればね原稿送付先(和文)：保科英人 〒910-8507 福井市文京3-9-1 福井大学教育地域科学部

E-mail: hhoshina@f-edu.u-fukui.ac.jp (E-mailでの投稿を歓迎します)

入会および会費問合せ先：野村英世 〒590-0144 堺市赤坂台1-18-5 Tel. 0722-98-4066

(年会費 A会員 5,000円；B会員 6,000円)

昆虫学評論 原稿送付先(英文)：初宿成彦 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23

大阪市立自然史博物館・昆虫研究室気付